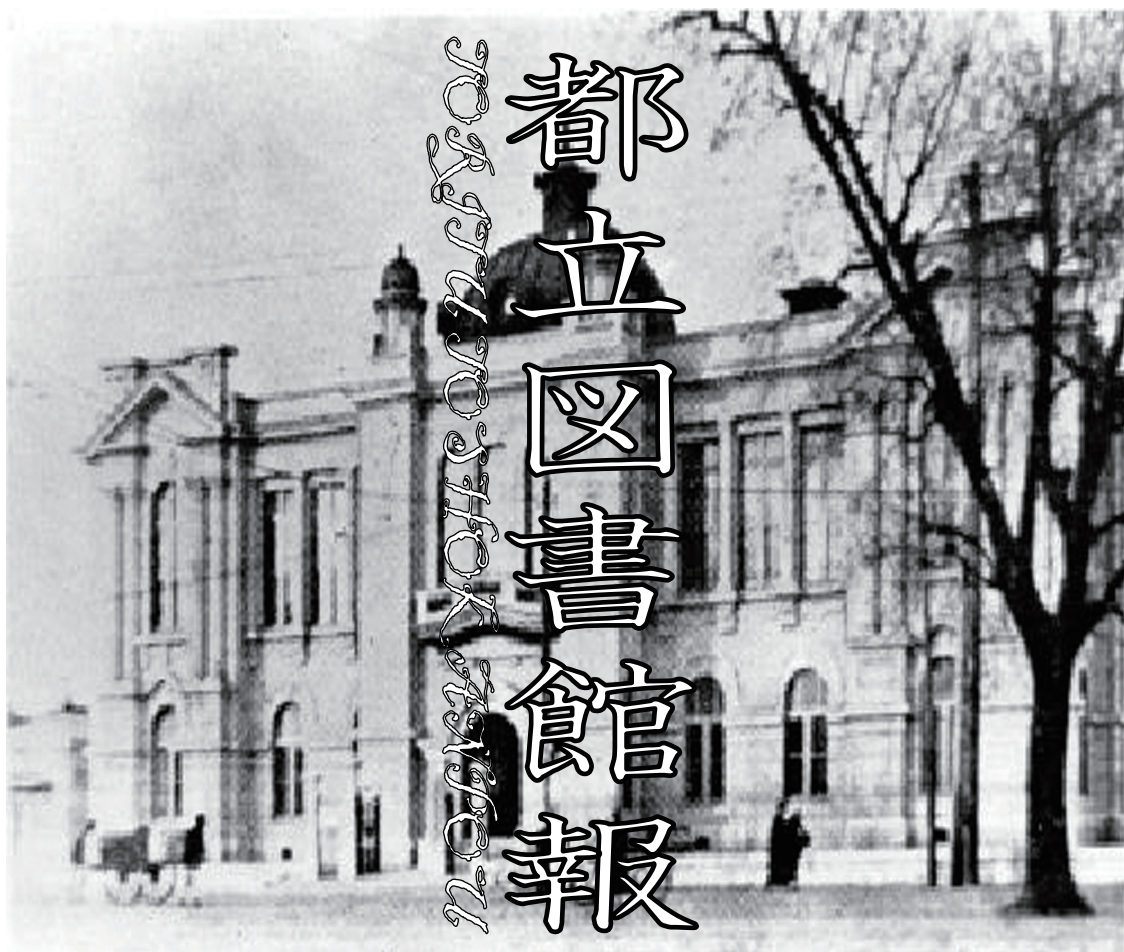




通巻 第158号

平成21年3月  
東京都立図書館



東京都立図書館

## 目 次

|               |                                                   |              |    |
|---------------|---------------------------------------------------|--------------|----|
| 巻頭言           | 「常に進化する図書館を目指して」                                  | 中央図書館長 影山 竹夫 | 1  |
| 第1 特集         | 都立図書館改革の取組                                        |              |    |
| 1             | 都立図書館改革の進捗状況について                                  | 企画経営課        | 2  |
| 2             | リニューアルオープンに向けての改修工事の実施                            | 総務課          | 4  |
| 3             | 臨時閲覧室の開室ー改修工事中のサービスについてー                          | 情報サービス課      | 5  |
| 4             | 外部倉庫の活用                                           | 情報サービス課      | 6  |
| 5             | 資料データ整備                                           | 企画経営課        | 7  |
| 6             | 中央図書館リニューアルオープン内覧会とテープカットセレモニー                    | 企画経営課        | 8  |
| 7             | リニューアルオープン記念企画展                                   | 企画経営課        | 9  |
| 8             | リニューアルオープン記念講演会 勝間和代（経済評論家）氏                      | 企画経営課        | 9  |
| 9             | 多摩図書館の新たなサービス実現に向けて<br>～「東京マガジンバンク」と児童・青少年資料サービス～ | 多摩図書館        | 10 |
| 10            | 日比谷図書館の千代田区移管                                     | 日比谷図書館       | 13 |
| 第2 サービス       |                                                   |              |    |
| 1             | 中央図書館は、こう変わりましたーリニューアル後のサービスの展開ー                  | 情報サービス課      | 14 |
| 2             | 中央図書館のワンストップサービスー新たなサービス体制の構築ー                    | 情報サービス課      | 15 |
| 3             | 都市・東京情報サービスの実施に向けた取組                              | 情報サービス課      | 17 |
| 4             | 重点情報サービスの推進                                       | 情報サービス課      | 19 |
|               | （1）ビジネス情報サービスー改修工事中でも知恵と工夫で“継続”ー                  |              |    |
|               | （2）健康・医療情報サービスの充実・拡大ー利用者ニーズにこたえたサービスの提供ー          |              |    |
|               | （3）法律情報サービスー司法制度改革の中で求められる法律情報ー                   |              |    |
| 5             | 人文科学系資料・閲覧室の紹介                                    | 情報サービス課      | 22 |
| 6             | NACIS-CAT 遡及入力終了と中国語・韓国・朝鮮語コレクションの現況              | 資料管理課        | 24 |
| 7             | 日比谷図書館のサービス評価の試みーサービス指標を用いてー                      | 日比谷図書館       | 25 |
| 8             | 子供読書活動推進事業について                                    | 多摩図書館        | 26 |
| 第3 東京都立図書館協議会 |                                                   |              |    |
|               | 第23期 都立図書館協議会提言<br>「都立図書館のサービスと図書館改革の評価について」      | 企画経営課        | 28 |
| 第4 連携・協力      |                                                   |              |    |
| 1             | 区市町村立図書館との連携                                      | 企画経営課        | 32 |
| 2             | 東京都図書館研究交流会の開催                                    | 企画経営課        | 33 |
| 3             | 区市町村図書館レファレンス研修                                   | 情報サービス課      | 34 |
| 4             | 学校支援                                              |              |    |
|               | （1）首都大学東京「現場体験型インターンシップ」                          | 企画経営課        | 35 |
|               | （2）教職員研修への協力                                      | 企画、日比谷、多摩    | 35 |
|               | （3）都立特別支援学校生徒の現場実習協力                              | 企画経営課        | 36 |
|               | （4）中学生の職場体験・インタビュー調査への協力                          | 企画、日比谷、多摩    | 37 |
|               | （5）高校生の奉仕体験・インタビュー調査等への協力                         | 企画、多摩        | 38 |
|               | （6）都立特別支援学校との連携                                   | 多摩図書館        | 38 |
| 5             | 東京資料サーチと東京都図書館等連絡会                                | 企画経営課        | 39 |
| 第5 行事・展示      |                                                   |              |    |
| 1             | 都立図書館企画展 「緑あふれる東京の再生をめざして」                        | 情報サービス課      | 40 |
| 2             | 文化財ウィーク2008参加事業 「江戸城ー大奥で働く女性たち」展                  | 情報サービス課      | 42 |
| 3             | 都立図書館企画展 「アスリートたちー北京オリンピック直前！」                    | 情報サービス課      | 43 |
| 4             | 日比谷図書館企画展示 平成20年度 テーマ展示及びトピック展示                   | 日比谷図書館       | 44 |
| 5             | 多摩図書館企画展 東京マガジンバンク及び児童・青少年サービスのプレ展示               | 多摩図書館        | 46 |
| 6             | 多摩図書館企画展示 「山本有三を考える（山本有三展 ④）」                     | 多摩図書館        | 47 |
| 7             | 山本有三文庫の「書き込み」調査                                   | 多摩図書館        | 48 |
| 8             | 日比谷図書館映画会                                         | 日比谷図書館       | 49 |
| 9             | 平成20年度 子供読書フォーラム 「本を読むこと」との幸せな出会いを                | 企画、多摩        | 50 |
| 資料            | 都立図書館における名簿類（「省庁の幹部職員の住所録等」）の取扱いについて              |              | 52 |

---

## 巻頭言

### 常に進化する図書館を目指して

東京都立図書館長 影 山 竹 夫

---

平成18年度112館、平成19年度47館、平成20年度30館この数字を御存知だろうか。

全国でこの3年間に新設あるいは全面改築された公共図書館の数である。厳しい財政状況の下、公共施設の見直しが進んでいる中で公共図書館はいわば、数少ない成長産業の一つとさえいえるのではないか。しかし、その運営形態は、業務委託はもとより指定管理者制度あり、PFIあり多様なものになってきていることにも併せて注目する必要がある。

東京だけ見ても、千代田区立千代田図書館、府中市立中央図書館、豊島区立中央図書館、青梅市中央図書館、北区立中央図書館など、個性的で最先端の設備を誇る図書館が続々と誕生している。再開発のいわばキーテナントして図書館が入居するケースも多い。

子供の活字離れ・読書離れの傾向が指摘されて久しく、インターネットも広く普及し、小学生でさえ、インターネットで宿題や課題研究をする時代である（もちろんこれには賛否があるが）。

こうした中であってこの図書館ブームともよぶべき傾向が続いているのはどう説明されるであろうか。便利で機能的かつ効率的な運営をする公共図書館の人気や必要性は高まっているということだろう。

さて翻ってわが都立図書館である。

この一年は、都立図書館にとってもエポックメイキングな年であった。まず、東京市の時代から数えて都立図書館が創立100年を迎えたことである。二つ目は、都立中央図書館が1月4日にリニューアルオープンし、1階でのワンストップサービスの施行と都市・東京情報などの特色あるサービスの展開を始めたことである。三つ目は、日比谷図書館が千代田区への移管合意に伴い、3月31日を持って都立の看板を下ろすことである。最後は、5月には多摩図書館がマガジンバンクとして始動することである。

こうした変革を迎えた中でも、都立図書館に向けられた課題は多い。中央と多摩の2館体制の中での相互の役割分担と利用者サービスを向上させ、真に東京の情報センターの核としての役割を果たし、都民に頼りにされる図書館となること。東京における図書館の図書館的な役割を果たし、区市町村立図書館のバックアップ的機能を充実することや都立図書館として都庁各局との連携、とりわけ教育委員会所管図書館として教育庁の事業との連携や協働に努めるべきことなどである。

行政サービスの多方面において「評価」が求められる時代であり、行政評価としての図書館評価も本格的にスタートする。

評価指標の目標達成だけでなく、都立図書館の真の存在意義が達成できているか否かが問われてこよう。図書館員一同が、従来の枠にとらわれない、攻めの姿勢で図書館改革に取り組み、常に進化する図書館を目指すことがますます求められている。

# 第1 特集 都立図書館改革の取組

## 1 都立図書館改革の進捗状況について (中央図書館リニューアルオープン等)

### 企画経営課

平成 20 年度は、『都立図書館改革の具体的方策』(以下『具体的方策』という。)に基づく改革の、3 年間の取組の第 2 年次であった。また、都立図書館として 100 周年を迎えた年でもあり、昨年度にも増して改革を大きく進め、都立図書館として画期をなす年となった。

中央図書館においては、大規模な改修工事を行い、組織と運営体制を見直して平成 21 年 1 月 4 日にリニューアルオープンした。

日比谷図書館は、懸案となっていた千代田区への移管が決まり、平成 21 年 4 月 1 日から休館することとなった。

多摩図書館は、平成 21 年 5 月 1 日に「東京マガジンバンク」を開設するため、改修工事と諸準備を行った。

## 第 1 中央図書館

今回の改修工事による資料配置の大幅な変更等は、昭和 48 年の中央図書館開館以来、最大かつ抜本的なものであった。また、リニューアルオープンに向けての組織、運営体制の改編は、『具体的方策』において求められた、改革の基盤づくりとしての組織と業務運営の大きな見直しであり、情報サービス体制のより一層の効率化を目指したものである。

また、先行して平成 17 年度から実施していた電話レファレンスを集中的に受け付けワンストップで対応する(共同)電話センターの業務執行体制とあわせ、開館以来のいわゆる主題室制を完全に廃した。

## 1 新たな施設構成の展開

### (1) 利用しやすい蔵書配置に変更

#### ア 自然科学系資料を 2 階に移設

これまで 4 階の自然科学室に配置されていた工学・工業・産業等の資料は、2 階の社会科学室資料との関連性が強く、フロアの分かれた資料をどう案内するかが長年にわたる難しい課題であった。これを解決するため、2 階の社会・自然科学系資料・閲覧室として統

合し、利便性の向上を図った。

#### イ 都市・東京情報コーナーを 1 階に新設

公共図書館における郷土資料や自治体行政資料のサービスは、地域の情報拠点として欠かせないものであり、当館においても、都立図書館ならではのサービスとして、その重要性は高まってきていた。このため、利用者入口から最も離れた 5 階にあった東京室を 1 階に移設し、新たに「都市・東京情報コーナー」としてリニューアルした。また、これまで地域分担的要素が残っていた多摩地域資料について、多摩図書館から中央図書館に集中した。

#### ウ 重点的情報サービスコーナーを 1 階に集中 (2) 開架閲覧スペースの拡充

2 階、3 階の事務室及び 3 階の書庫を開架スペースに転用することにより、開架図書を 25 万冊から 35 万冊規模に増加させた。これは、大規模な開架図書という都立図書館ならではの特徴をより鮮明にさせ、他の図書館との差別化を図るものと言える。

#### (3) 各階の相談カウンターを 1 階に集中

これまで利用者の相談内容が複数の主題に関わる際は、各階のカウンターで相談を繰り返す必要があったが、リニューアルオープン後は、1 階の総合案内・相談カウンターでワンストップ案内を受けられる体制とした。あわせて、情報サービス課の組織を改正した。

## 2 組織の改正等

### (1) 情報サービス課の組織改正

リニューアルオープン後のワンストップサービス等に対応して、平成 20 年 4 月から、情報サービス課の組織改正を行った。

資料相談係、社会科学係、人文科学係、自然科学係、新聞雑誌サービス係の 5 係を、サービス計画係、調査支援第一係、調査支援第二係の 3 係に統合再編した。これまで主題毎の分野別に細分化されていた組織体制を見直し、利用者ニーズに即応できる、柔軟で弾力的な組織体制とした。東京資料係は、「東京」や「都市」に関する情報を重点的に提供していくため、都市・東京情報係とした。

また、連絡調整担当係長及び書誌担当係長を廃し、サービス計画係にサービス推進担当

係長を、調査支援第二係に重点情報推進担当係長を新たに配置した。

#### (2) 事務室を1階に集中

これまで各階に分散していた情報サービス課各係の事務室を、特別文庫係、視覚障害者サービス係を除いてすべて1階に集中した。これにより課内の情報伝達、情報共有の効率化が図られるとともに、総合案内・相談カウンター等における繁忙時に、機動的かつ柔軟に対応できる体制を確保した。

なお、2・3階の開架資料と事務室が離れることになったこと、また、ワンストップサービスの開始による新しい業務執行体制の中で、これまで以上に専門性の向上と人材育成に努めていく必要がある。

### 3 業務運営の効率化

#### (1) 出納業務の全面委託化

平成19年度は新聞・雑誌資料と人文科学資料のみが対象であった中央図書館の書庫資料の出納業務は、リニューアルオープン後は、全面委託とした。これにより、総合案内・相談カウンターの職員は、レファレンス業務に専念することとした。

#### (2) フロア案内業務の委託等

ワンストップサービスの実施にあわせ、各階にフロア案内のスタッフ(委託)を配置し、館内の利用案内や書架案内等を担当することとした。また、利用者が直接かけられ、職員と話ができる内線電話や検索用パソコンを設置した「案内ホットライン」を1階から3階に設置した。

### 4 その他

多摩図書館に「東京マガジンバンク」を開設するため、中央図書館で所蔵していた雑誌約6,900タイトルを多摩図書館に移管することとした。中央図書館では、重点的情報サービス関係の雑誌を中心に、調査研究に必要な雑誌約4,000タイトルを、引き続き提供する。

### 第2 日比谷図書館

東京都教育委員会は、平成17年10月から日比谷図書館を千代田区へ移管するための協議を進めてきた。平成20年10月14日、東京都教育委員会と千代田区教育委員会とは、都立日比谷図書館の

移管に関し、覚書を交わし、基本的な方向性について合意した。

#### <覚書の概要>

(1) 移管時期：平成21年7月1日

(2) 移管条件

ア 安全管理上必要な改修工事を千代田区が実施し、費用は東京都が負担する。

イ 公有財産は、千代田区に無償で譲渡する。

ウ 土地使用料は、無償とする(条例及び基準による。)

エ 日比谷図書館の名称を継承し、可能な限り現建物を活用する。

オ 現行図書館サービスの継続・向上に努める。

#### ○今後のスケジュール等

(1) 都立日比谷図書館は、平成21年3月末まで開館し、4月より休館することとなった。同館では、平成21年7月1日の移管に向けて、具体的な手続及び準備を進める。

(2) 千代田区では、平成20年度中に基本計画を策定し、その後、改修工事を行い、平成22年度中に開館予定としている。

### 第3 多摩図書館

『具体的方策』では、中央図書館と多摩図書館との機能分担を推進し、多摩図書館は雑誌を集中的にサービスする「東京マガジンバンク」と、児童・青少年サービスを担うこととした。平成21年5月1日のリニューアルオープンに向け、閲覧室等の改修工事を行いつつ、諸準備を進めた。

### 第4 区市町村立図書館との連携・協力

「東京都公立図書館横断検索システム」の機能改善を検討し、相互貸借の促進を図った。

また、東京都公立図書館長連絡会の全体会及び幹事会において、協力貸出方針について意見交換を行い、見直しを進めた。

### 第5 図書館サービスの評価

第23期都立図書館協議会において、平成20年11月、「都立図書館のサービスと図書館改革の評価について」をテーマに、都立図書館の評価指標と評価体制について提言をいただいた。今後は、評価指標に基づいて評価を行い、業務の改善に努めていく。

## 2 リニューアルオープンに向けて の改修工事の実施

### 総務課

### 1 改修工事の目的

中央図書館では、ワンストップサービスの実施、利用しやすい蔵書配置、開架書架の増設等を目的として、平成20年5月から12月までの期間、改修工事を行った。

### 2 施設改修の主な内容

#### (1) 利用者サービスのワンストップ化

1階に総合案内・相談カウンターを設置し、利用者の手続きが1階ですべて処理できるようにするために、分散して配置していた、①レファレンス業務、②館内貸出手続業務、③複写サービス業務の各窓口を1箇所に集中させて配置することにした。

#### (2) 重点的情報サービスコーナーの集中配置

今まで2階の社会科学室に開設していた「ビジネス情報コーナー」、「法律情報コーナー」、又4階の自然科学室に開設していた「健康・医療情報コーナー」を1階に集中配置した。また、新たな重点的情報サービスとして「都市・東京情報コーナー」を開始するなど、ニーズの高い資料を1階に集中配置した。

#### (3) 開架図書スペースの拡充と再編成

情報サービス課事務室を1階に集中することにより開架書架を拡充し、また、1階から5階に分散していた開架図書を1階から3階に配置替えを行なった。これら書架の移動に伴い、天井の照明位置の変更や、誘導灯や煙感知器などの防災設備の変更を行なった。

#### (4) 企画展示室とセミナールームの新設

4階には、企画展示室を新設した。仕切板が可動式になっており、展示内容に合わせて、自由に展示スペースやレイアウトを変更することが可能となっている。室内の照明器具には紫外線防止用蛍光灯を取り入れ、また、調光式のスポット用照明を設置した。また、5階には、セミナールームを新設し、電動式のスクリーンを設置した。

### 3 設備の主な改善

#### (1) 書架の側板に多摩産材を使用

開架閲覧室の書架の側板は従来スチール製

であったが、リニューアル後は、多摩産材のヒノキの板にすべて交換した。このことにより、閲覧室の雰囲気が、暖かく明るいイメージになった。

また、3階のトイレ前には、多摩産材のイスを設置した。



#### (2) 1人用閲覧席の新設

従来の4人用閲覧席に加えて、新規に1人用の閲覧席を1階から3階に合計31席分設置した。

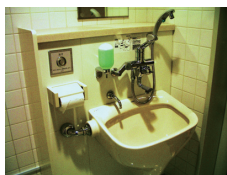
また、パソコン使用者が増えたことに対応し、パソコン利用可能閲覧席を293席に増やし、利用者の便宜を図った。



#### (3) 快適なトイレへの改善

図書館利用者に快適にトイレを利用してもらうように、1階から5階の利用者用トイレ35台すべてをウォシュレット用便座に改善した。

また、3階身障者用トイレの中にオストメイト対応設備を新設した。



#### (4) カフェテリアの改修

5階カフェテリアの床を木目調のビニール系床タイルに改修し、壁を全面塗装した。



### 3 臨時閲覧室の開室

#### － 改修工事中のサービスについて － 情報サービス課

ワンストップサービスに向けた今回の改修工事では、利用者用閲覧スペース、開架資料スペース、1階から4階までの閉架書庫スペース、サービス部門の事務スペースのほぼすべてが工事区域となった。工事区域外の特別文庫室、視覚障害者サービス室では、現行の場所ではほぼ通常どおりのサービス(一部、事前予約制を実施)を行った。一般資料のサービスにおいては、非来館型の電話、Eメールレファレンスのほか、狭小なスペース、資料の外部倉庫への移送という制約があるなかで、臨時閲覧室を設けて可能な限りのサービスを実施した。

#### 1 臨時閲覧室の概要

##### (1) 開室期間・開館時間等

平成20年5月19日から11月30日まで開室した。開館時間は、平日は午前10時から午後9時まで、土・日・祝日は午前10時から午後5時30分までと通常の開館時間を確保した。

##### (2) 設備・規模等

利用者用のスペースはすべて4階に集め、動線は、1階と4階にしか停止しない専用エレベーターに限定した。

4階にある3研修室の間仕切りを取り、書架68連を設置して約12,000冊の資料を開架した。閲覧席は、指定席72席、短時間利用席20席を設けた。

研修室から多目的ホールに続く「ホワイエ」に、蔵書検索、インターネット検索、オンラインデータベース等利用のためのパソコンを9台設置した。また、持ち込みパソコン用指定席8席、マイクロリーダー4台を設置した。

臨時複写室を設け、4階で複写物の受け渡しを可能とした。なお、飲み物自動販売機と、飲食専用席、携帯電話利用席も設けた。

工事前の設備と比較すると、閲覧スペース10%、開架資料数5%、閲覧席10%、パソコン数14%の規模の確保となった。

### 2 サービスの概要

#### (1) 利用可能資料

開架図書は、ビジネス情報、法律情報、健康・医療情報、住宅地図、基本参考図書の約12,000冊。

出納により当日利用可能な資料が約103万冊。地下書庫にある比較的出版年が古い資料が該当する。なお、東京関係資料は外部倉庫に預けず、すべて地下書庫に移して出納した。

外部倉庫に移送した資料のうち、人文科学、社会科学系資料約16万冊は、取寄せにより、申し込みの翌日以降に提供した。

開架、出納、取寄せ合わせて120万冊、全図書資料の80%を利用可能とした。

#### (2) 利用できない資料

図書資料約30万冊(外部倉庫ダンボール詰及び工事エリア書庫資料が該当)と、すべての新聞・雑誌が利用に供せなかった。

#### (3) サービス体制

サービス計画係、調査支援第一係、調査支援第二係、都市・東京情報係の職員が一体となり、来館者の総合案内(5時半まで1名)、相談カウンター(常時2名)、電話レファレンス(3名)、Eメール、文書、政策支援レファレンス等に従事した。なお、上記4系の嘱託員が指定席の受付、資料出納等に従事した。

#### (4) 指定席について

平成20年1月の利用実態調査を分析し、受験勉強を目的とした利用者は滞在時間が長く、利用頻度も高いこと、仕事上の調査研究を目的とした利用者は滞在時間が1,2時間と短いこと、朝一番に入館した利用者の35%は5時以降まで在館しており、その半分は週1回以上利用していること等がわかった。

通常の10%、100席しかない閲覧席をすべて自由席にすると午前中で満席となり、12時には入館制限が必要となると判断し、80席を1回2時間までの指定席(申込制、満席でなければ延長可能)とした。自習席としての座席利用を抑制し、調査研究を目的とする利用を優先するためである。



臨時閲覧室

### 3 利用の概況

入館者は1日平均190名、最高332名。期間中一度も満席や入館制限にはいかなかった。資料出納は、1日平均218冊、複写枚数は1日平均1,900枚。工事前と比較すると、入館者20%、資料出納33%(図書で比較)、複写枚数30%の規模となる。

臨時閲覧室の規模から見て、まずまずの利用があったといえよう。東京都の住宅地図、東京都公報等、東京関係の利用が多く、次いで人文科学系の書庫資料の利用が目立った。

リニューアル後のワンストップサービスのPR、リハーサルの場合としても、臨時閲覧室でのサービスは大変意義あるものであった。

## 4 外部倉庫の活用

### 情報サービス課

中央図書館の改修工事期間中に、旧志村高校を外部倉庫として活用した。比較的利用が少ないと予測される資料についてはダンボールに詰めて保管するとともに、利用の多い資料については書架に並べて、臨時開館中もサービスできるようにした。以下は外部倉庫への搬入・搬出及び保管・利用業務の概要である。

#### 1 外部倉庫への搬入

##### (1) 準備作業

使用する17の教室の整備と約20万冊分の書架の設置。中央図書館で志村保管分の箱詰め。

##### (2) 外部倉庫保管資料等

###### ア 図書・雑誌・新聞縮刷版

開架図書(旧社会科学室、旧人文科学室の開架図書、中国語図書) 約16万冊

保管図書(旧自然科学室開架図書及び旧一般参考室開架図書) 約20万冊

多摩図書館マガジンバンク用に移管する雑誌(ダンボール詰め) 約12万冊

新聞縮刷版(ダンボール詰め) 約5,500冊

###### イ 書架

改修工事に支障となるため全館の開架閲覧室から取り外した書架のうち、一部を組み立てて使用し、残りは解体して保存した。

ウ 利用者用検索パソコン等約50台の保管

##### (3) 日程

平成20年4月21日～5月31日

図書の梱包や書架解体等様々な作業が錯綜し、非常にタイトなスケジュールとなったが、当初の予定より若干遅れたものの、サービスに大きな支障はきたさなかった。

## 2 資料の保管と利用

##### (1) 体制

月曜日から金曜日まで、職員2名、嘱託員3名が常駐。中央図書館と外部倉庫を結ぶ集配便が1日1回往復

##### (2) 業務内容

###### ア 中央図書館への取寄せ対応

臨時閲覧室で利用要求のあった図書とEメールレファレンスのための図書の集荷と返却

###### イ 協力貸出の集荷、戻り本の配架

###### ウ 新着資料

20年4月以降に情報サービス課に送付された図書の保管と利用

###### エ レファレンス

人員の関係もあり、特定の図書の中身を見てほしいというようなレファレンスにのみ対応

###### オ その他

書架見出しの作成、簡易な製本業務、開架図書のある部屋及び階段の清掃、窓開け、磁気装着作業、都市東京資料の引抜・送付等

##### (3) 業務統計

ア 取寄せ 3,284冊

イ 協力貸出 10,466冊

ウ 新着資料 14,357冊

エ レファレンス 104件

オ 都市東京資料引抜・送付 476冊

## 3 外部倉庫からの搬出

取寄せ、協力貸出、新着資料の受取は11月14日で終了し、リニューアルオープンに向け搬出準備を行った。

##### (1) 準備作業

開架図書の箱詰め(日程の関係で新着資料だけは、ダンボールに詰めこんだあと数日間蓋をせず協力貸出等に対応)中央図書館で使うため書架の解体と運び出し

##### (2) 外部倉庫から搬出した資料等

5月に搬入した資料等以外に、新着資料約1.5万冊と多摩図書館行政郷土資料の図書約1.7万冊、雑誌約1万冊、新聞約5千冊、ポスターとマイクロフィルム

(3) 日程

平成20年11月10日～12月10日

搬入時に劣らず様々な作業が錯綜し、かなりタイトなスケジュールとなったが、ほぼ予定通りに作業は進められた。

#### 4 問題点等

(1) 動線について

資料を書架に並べておくために出来るだけ使い易い部屋を使用した。が、動線が長すぎたため、多くの業務に困難を伴った。

(2) 資料の保存について

資料の保存については大変気を使い、空気の入替えをできる限り行った。9月に洋書の大型本数十冊にカビが発見され、応急措置をした。

幸いダンボール詰め資料にカビが発生することはなかった。

(3) 職員の勤務について

職員の勤務は、1か月交代だったが、嘱託員の勤務を2～6か月としたことで、毎月の職員交代時も業務はスムーズに遂行された。

(4) セキュリティカードについて

学校全体といくつかの教室の出入りに、セキュリティカードが必要で扱いに慣れるまでに、多少の時間が必要であった。



資料の移動作業中

## 5 資料データ整備

### 企画経営課

改修工事期間中のサービス継続にあたり、蔵書検索や協力貸出等が支障なく行えるよう、資料搬出や協力貸出停止・再開のスケジュールに合わせて個々の資料の所在や利用可否をデータに正しく反映させる必要が生じた。そのため、5月の臨時閲覧室開室準備期間と12月のリニューアルオープン準備期間に、所蔵データ変更及び配置場所表示などの組み替え・新設作業を実施した。

数十万件に及ぶデータを短期間で変更するのに、蔵書管理システムメニューを使用した通常手順での作業では対応できないため、情報サービス課でのデータ変更作業に加え、図書館情報システム係担当者がSQLにより一括データ変更作業を実施した。

作業順やデータ変更内容は、資料を所管する情報サービス課各係をはじめ、広報、協力貸出、資料整理など図書館全体の業務に関わる。各部署担当者と事前の打ち合わせを重ね、4月から12月までの資料の動きを考慮した作業計画を立てた。索引生成等の夜間バッチ処理にかかる負荷を考慮して一日の作業件数上限を5万件程度とし、情報サービス課で行うデータ変更も含めた作業量を見積もり、日程を組んだ。

5月には以下のデータ変更作業を実施した。

- ・「臨時閲覧室」への配置場所変更
- ・外部倉庫資料のデータ変更
- ・利用不可資料について、データへの反映

併せて、蔵書検索で「外部倉庫」「臨時閲覧室」「現在利用できません」等の表示を行うため、蔵書検索システム側の表示変更を実施した。なお、新聞・雑誌についてはデータ全件を変更することが日程的に困難だったため、個々の所蔵データ変更は行わずに、蔵書検索の配置場所表示欄を「現在利用できません」と変更することで対応した。

12月には以下のデータ変更作業を実施した。

- ・外部倉庫資料のデータ戻し作業
- ・利用不可としていた資料のデータ戻し作業
- ・新コーナーへの配置場所変更
- ・組織改変に伴う所管部署変更

## 6 中央図書館リニューアルオープン内覧会とテープカットセレモニー

### 企画経営課

#### 1 リニューアルオープン内覧会

中央図書館では、年明けのリニューアルオープンに先立ち、ワンストップサービス等により利便性を増した館内のアピールと新たなサービスのテストランを目的に、内覧会を開催した。

##### (1) 開催日時

平成20年12月25日(木)

午後1時30分から午後4時30分まで

##### (2) 出席者

都教育委員会関係者、第23期都立図書館協議会委員、隣接する県立図書館長、歴代館長・管理職、区市町村立図書館長など37名

##### (3) 主な内容

###### ア 館内見学ツアー

受付で5名程度のグループを作り、職員が1階から5階まで引率する約1時間半の見学ルートを設定した。また、ポイントとなる場所に情報サービス課の職員を置き、さらに詳細な説明を行った。

###### イ リニューアルオープン記念企画展見学

本企画展については、展示資料をゆっくりと御覧いただくため、見学ツアー後の自由見学とした。

###### ウ 記念品(しおり、一筆箋)の配布

都立図書館100周年記念として、東京市立日比谷図書館の外観がプリントされたしおりと特別文庫室の植物図譜から数点を挿絵とした一筆箋を作成し、内覧会出席者に配布した。

##### (4) 運営

見学者引率、各階案内、企画展のギャラリートーク及び受付・誘導・接待等を行う者を各課から選出し、のべ約35名の運営要員で実施した。

内覧会出席者からは、「開架資料の豊富さ、多摩産材の書架は都民から好評をいただけるはず。」「東京資料や重点サービスコーナーを1階に集約したことは意欲的な試みである。」等の御感想をいただき、本館の新たなサービスに対する期待が感じられた。内覧会は、当館のリニューアルについ

て図書館関係者から大きく注目されていることを改めて認識する機会であったといえよう。

#### 2 テープカットセレモニー

平成21年1月4日、リニューアルオープン当日は、まさに正月らしい青空であった。オープンを記念し、午後1時、エントランスホールでテープカットセレモニーが行なわれた。

★★★

午後0時15分、都立三田高校管弦楽部の演奏リハーサルが始まった。館の外を見ると、利用者とおぼしき人は誰もいない。果たして、午後1時の開館時に人はどれだけ集まってくれるのだろうか、と不安になった。

午後0時30分、テープカットに立会うため、館内の職員がエントランスホールに集まってきた。皆の表情には、緊張と不安が入り混じっている。

午後12時40分、館の自動ドア付近にどこかともなく利用者が集まってきた。それはあつという間に行列となり、自動ドアを開放しても入りきらないほどの人数となった。

午後12時50分、都立三田高校の演奏とともにテープカットセレモニーが始まり、影山館長と利用者、都立三田高校の生徒の3名が紹介され、テープの前に進んだ。司会の掛け声とともにテープにハサミが入り、大きな拍手が起こった。

午後1時、歓迎の拍手と行進曲が流れる中、利用者は新しい入館証と記念しおりを手に取り、続々と館内に入っていた。

★★★

リニューアルオープン当日は、正月にも関わらず、半日で約950名の人々が来館し、閉館時間まで賑わった。都民からも大きく期待されている。その期待を裏切らないためにも、私たちはこれからも全身全霊でサービスし続けなければならない。



テープカット

## 7 リニューアルオープン記念企画展 「都立図書館 100 年の歩み、そして、未来 へのチャレンジ―東京の未来を拓く力 へー」 企画経営課

### 1 はじめに

平成 21 年 1 月 4 日から 2 月 25 日まで、リニューアルオープン記念企画展として、新設した企画展示室(4 階)において、標記テーマで開催した。会期中の来場者は、2,255 名であった。

準備及び開催にあたっては、都立図書館 3 館で構成するプロジェクトチームを設置し、役割分担をしながら、作業を行ってきた。

なお、平成 21 年 1 月 13 日から 23 日まで都庁第一本庁舎 1 階中央ホールでもパネル展を行った。

### 2 3 つのテーマによる展示構成

- (1) 図書館資料の魅力～古地図に見る、「未知の国・日本」～

絢爛たる彩飾画が施された写本(原本)(15 世紀)を忠実に複製した、『驚異の書 マルコ・ポーロ東方見聞録』、地図では、「坤輿万国全図」など、大型豪華本、近代的世界図等、多彩な内容・色彩・形態等をもつ図書館資料の魅力に迫った。

- (2) 都立図書館の新たなチャレンジ～東京の未来を拓く力～

新しい重点的情報サービスとして、「東京の交通」をテーマに、新設した「都市・東京情報コーナー」、「雑誌の魅力」を発信する、「東京マガジンバンク」(多摩図書館)を中心に、図書・雑誌、パネル等で紹介した。

- (3) 都立図書館 100 年の歩み～歴史の重みをつなぐ～

都立図書館 100 年の足跡(時代ごとの事業や活動)を、年表、写真、資料、当時の物品等から概観し、その歴史の重みを実感した。また、和装本修復についての展示及び実演も行った。



▲「坤輿万国全図」(複製)

### 3 今後に向けて

今後も、様々なアプローチからの企画展を実施することを通じ、都立図書館及び所蔵資料の魅力を、積極的に発信していきたい。

## 8 リニューアルオープン記念講演会 勝間 和代氏(経済評論家)講演会 「自分を進化させる読書―ウェブ時代の 新しい読書論―」 企画経営課

### 1 はじめに

リニューアルオープンを記念し、「本」・「読書」をキーワードに、「本」や「読書」とのかかわり、人生を豊かにしていく「読書」方法、今後の「読書」のあり方、図書館の活用方策等を学び、考える機会を提供するとともに、都立図書館の PR 及び利用促進を図るために、「自分を進化させる読書―ウェブ時代の新しい読書論―」をテーマに、記念講演会を開催した。

講師は、経済評論家で、最近ではテレビ番組にも登場している、ベストセラー著者の勝間和代氏を迎えることができたため、応募者数は、700 名を超え、応募多数のため抽選となった。

### 2 記念講演会の概要

- (1) 日 時 平成 21 年 2 月 22 日(日)

午前 10 時 30 分から午後 0 時 30 分まで

- (2) テーマ 「自分を進化させる読書―ウェブ時代の新しい読書論―」

- (3) 講師 勝間 和代 氏  
(経済評論家、公認会計士)

- (4) 会場 都立中央図書館 4 階 多目的ホール

- (5) 参加者数 134 名

- (6) 主な内容

新しいウェブ時代において、自分の人生を豊かにし、進化させる「本」やその中で著者との出会い・会話は、自分の未来に対する指針を示し、現在の体験を豊かにし、考え方のフレームワークを与えてくれる。「読書」は、決して受身的なものではなく、人生に目標と指針を与え、日々進化させてくれるすばらしい方法である。ネットが全盛期の今こそ、本の役割を見つめ直し、「読書」に投資してもらいたい。

勝間さん御自身の歩みと重ねながら、図書館の楽しみ方も含め、新しい読書論についてお話されたことは印象深かった。



▲ 講師 勝間和代さん

## 9 多摩図書館の新たなサービス実現に向けて ～「東京マガジンバンク」と児童・青少年資料サービス～ 多摩図書館

### 1 はじめに

多摩図書館は、「都立図書館改革の具体的方策」（平成 18 年 8 月）に基づいて、身近な話題から世界的なニュース、専門的領域の動向まで、都民のさまざまな関心にこたえる「東京マガジンバンク」を平成 21 年度に創設する。

年次計画に従って平成 19 年度もその準備を進めてきたところであるが、本年度は、サービス開始前年度とあって、

- (1) 開架閲覧制の導入のための条件整備としての改修工事
- (2) 新規購入雑誌の選定、収集、データ作成（資料管理課と連携）
- (3) 資料の移動、再配置
- (4) 企画展示のプレ展示

等を実施してきた。また、改修工事期間中の仮閲覧室の運営を行った。

平成 20 年度における、東京マガジンバンクの準備作業等について報告する。

### 2 マガジンバンク、児童・青少年資料サービスの概要

新しく生まれ変わる多摩図書館は、雑誌サービスを行う東京マガジンバンク及び児童・青少年サービスをサービスの柱として運営する。

#### (1) 東京マガジンバンク

公共図書館として全国初の雑誌の集中的サービスを次の内容で行う。

##### ア 提供雑誌

一般雑誌から学術雑誌まで合計約 16,000 誌（うち継続刊行雑誌 6,000 誌）を目標に提供する（開設時 10,000 誌。うち継続刊行 6,000 誌）。

##### イ 雑誌の開架閲覧スペースを新設

利用者ニーズが特に高い約 300 誌については、最新号からおおむね 1 年間のバックナンバーを、資料出納請求することなく、直接手にとって閲覧利用できる等利便性を向上させる。

##### ウ 創刊号コレクションの充実、展示エリアの新設

雑誌の「創刊号」（約 2,600 誌）を更に充実

させる。また、各時代の風俗や社会情勢を文章や写真で活写した雑誌を使用して、タイムリーな各種企画展、講演会等を開催する。

##### エ 雑誌に関する各種サービスの提供

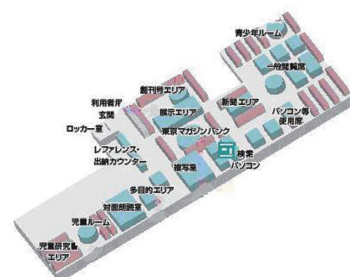
- (ア) 各種オンラインデータベースの活用
- (イ) 雑誌情報調査に密接に関連した情報提供
- (ウ) 複写物の取寄せサービス
- (エ) 雑誌の非来館者サービス

#### (2) 児童・青少年資料サービス

児童エリアをリニューアルして、親子がゆったりと読書を楽しめるスペースを設置する。また、児童研究書のコーナーを隣接させ、子供の読書に関わる利用者の資料利用を充実させる。

さらに、青少年エリアを独立させて、資料内容及び雰囲気的にも青少年が利用しやすい魅力あるスペースを提供する。

これらのエリアを運営しながら、東京都の子供読書活動への支援、学校の教育活動及び学校図書館活動、区市町村立図書館の児童・青少年資料サービス活動の支援機能を果たしていく。



マガジンバンク予定図

#### (3) その他のサービス

雑誌サービス、児童・青少年資料サービスに加えて、これまでも利用者提供してきた多摩図書館の貴重コレクションである山本有三文庫（小説家山本有三氏旧蔵書約 14,000 冊）を企画展示等により広く都民の閲覧に供する。

また、視覚障害者サービスについては、従来どおりの形で行う。

なお、平成 20 年度まで日比谷図書館で行ってきた 16 ミリ映画フィルム団体貸出サービスを、平成 21 年 4 月から多摩図書館において行う。

これらに伴い、多摩図書館は、レイアウト変更のための改修工事を行い、①雑誌開架開

覧スペースの新設、②展示エリアの新設、③複写室の移転、多目的エリアの新設等を行う。

### 3 平成20年度のマガジバンクの準備

#### (1) 資料及び事務室の移動

##### ア 多摩資料の館外移送

多摩資料の中央図書館一本化が決まり、委託作業によって、9月にB2書庫からの多摩資料引き抜き、11月に開架多摩資料の中央図書館へ搬出を行った。

##### イ 改修工事のための資料移動

###### (ア) 多摩図書館資料配置計画

「多摩図書館資料配置計画」を策定し(平成20年7月15日決定)、資料移動等を実施した。

平成21年度リニューアル開館のための資料移動は、21年4月実施の予定である。

###### (イ) 平成20年9月23日～10月17日

計画に従い、B1書庫の一般図書を委託によって、B2へ(約49,500冊)、B2保管庫の雑誌をB2書庫へ移動した(パンフレットボックス約1,500箱(図書換算約5,000冊))。

###### (ウ) 平成20年12月15日～18日、同月28日～平成21年1月7日

年末年始休館時を中心に、改修工事区域の開架閲覧室及び1階書庫から、委託によって、資料を一時的にB1書庫、B2書庫等に移動させた。内訳は、図書約82,000冊(うち文学部門及び児童研究書は、段ボール箱詰)、雑誌パンフレットボックス約12,200箱(図書換算約42,000冊)、新聞約550綴である。

##### ウ 外部倉庫からの雑誌の搬入

東京マガジバンクでは、雑誌約16,000誌の提供を目標としている。新たに多彩な分野の雑誌を幅広く収集するほか、中央図書館から雑誌を移管し、既存の雑誌と合わせ提供する方針である。

この方針に従い、平成21年1月、一部の雑誌を当館へ移送する作業を行った。5月から閲覧可能となるよう、順次データ整備を進めている。

##### エ 事務室の移動

閲覧室整備、書庫増設を目途とした施設改修に向け、閲覧室及び事務室の移動を行った。当館が所在する東京都多摩教育センター3・4

階研修室を複数使用し、3階を事務室、4階を仮閲覧室とした。

年末の12月28日(日)に什器類等を移送し、29日から30日の間LAN配線工事等を行った。平成21年4月には現況施設を撤収し、竣工後の図書館に再移動の予定である。

#### (2) 改修工事

施設改修は財務局建築保全部が担当し、実施設設計に基づき、平成21年1月から行っている。

雑誌書架増設に伴う事務室間仕切りの変更、多摩産材等を活用した閲覧室の整備、高書架の撤去、児童エリアの拡大、読み聞かせスペースの整備、携帯電話等が使用できる多目的エリアの新設、利用者の利便に配慮した複写室の移設、日比谷図書館からの16ミリ映画フィルムの移送に伴う地下2階スタジオの改修等を行う。

改修工事は、平成21年3月末竣工の予定である。

#### (3) 備品等の購入及びサイン計画

マガジバンク開設準備にかかる新規備品、サイン計画等のため、工事請負費、備品購入費をはじめ約55,000千円が予算措置された。

特に施設改修後の什器整備にあたっては、「多摩産材」の活用を進め、多摩地域の産業振興に努めるとともに、各種の企画展をタイムリーに実施できるよう展示棚、展示ケースを整備し、また雑誌を直接手にとって利用できるよう、高さの低い書架を適宜配置の予定である。

サイン計画においても屋外に施設名称看板を設置のほか、照明付の入口案内板、角度可変の館内案内板等を設置し、都民に親しみが持て、わかりやすい表示の工夫に努めているところである。

#### (4) サービス及び資料の準備

##### ア データベースの導入準備

数ある雑誌の中から求める記事を的確・迅速に探し出すためには、速報性や検索機能に優れたオンラインデータベースの活用が欠かせない。当館では、これまで、新聞記事索引を中心に4種のデータベースを提供してきたが、リニューアル後は、雑誌記事索引や電子ジャーナル等20種以上のデータベースを提供できるよう、準備を進めている。

ホームページやショートセミナー等を通じ、広くサービス内容を周知していく予定である。

#### イ 雑誌資料の整備

都民の多種多様なニーズにこたえられるよう、東京マガジンバンクでは、一般雑誌から学術雑誌まで広範な収集・提供を目指している。

既存の雑誌の蓄積を活かし、さらなる充実を図るため、中央図書館資料管理課と連携して、昨年度より新規雑誌の受入れを進めている。

特に、外国語雑誌、社会・文化・世相を反映する雑誌等の収集を積極的に行っている。また、「創刊号コレクション」の拡充を図っている。

#### (4) 16 ミリ映画フィルム団体貸出サービスの準備

日比谷図書館の千代田区移管に伴い、16 ミリ映画フィルムを多摩図書館に移管することになった。フィルム保管（予定）場所の改修工事、フィルム保管棚の購入と設置工事が事前準備として行われた。要綱の策定、フィルム移送を経て、4月から16 ミリ映画フィルムの団体貸出業務を多摩で始める予定である。

#### (5) その他

東京マガジンバンク発足に伴い、雑誌の協力貸出基準の改訂について検討を行った。

コピー取寄せサービスについては、実施に向け、鋭意準備中である。

東京マガジンバンクサービスの重要な柱の一つである企画展示については、20 年度においても「プレ展示」を行ってノウハウを蓄積した。⇒46 ページ「多摩図書館企画展」参照

## 4 改修工事中のサービス

多摩図書館は、平成 20 年 12 月 28 日から平成 21 年 1 月 6 日まで臨時休館し、7 日から多摩教育センター401 研修室を「仮閲覧室」として業務を再開した（3 月末日までの予定）。開館日、時間は図書館カレンダーどおりである。

スタッフの配置は、職員 2 名（相談、電話）、嘱託員 2 名（受付、出納サポート）、受託者 2 名（出納受付、出納）である。

仮閲覧室では、書庫資料出納を中心にほぼ通常どおりのサービスを行った。レファレンス、郵送複写、機材複写についても継続実施した。

複写はマイクロプリント、カラー複写を含めほぼ通常どおりのサービスを継続している。

閲覧席は、70 席（うち電源席室 16 席、新聞室 16 席）。配置資料は、参考図書約 2,000 冊、児童、青少年図書各 300 冊、を含み図書計約 3,000 冊。新聞原紙 26 タイトル、縮刷版、官報等である。コンピュータ端末は、利用者用蔵書検索端末 2 台、マルチ検索 1 台、インターネット 1 台であり、マイクロリーダーは 1 台を設置している。

なお、児童資料については、310 研修室仮設書架に児童図書約 8,800 冊を配置し、職員対応可能な場合には、来館した児童や研究者等に書架で直接資料を選択していただいた。また、「ちいさいひとのおはなし会」も継続実施している。

狭小な仮閲覧室にもかかわらず、一日平均 150 人程度（1 月末現在）の来館があった。

また、視覚障害者サービスについては、311 研修室に朗読室の什器、機材一式をすべて運び込み、仮対面朗読室として通常どおりのサービスを行った。エレベーターホールから 311 研修室まで点字ブロックを臨時敷設し、利用者に不便のないよう配慮した。



仮閲覧室

## 5 マガジンバンク創設に向かって

東京マガジンバンクの開設は、目前に迫っている。多摩図書館には、雑誌のことなら、何でもわかる、解決する、入手できる図書館機能の確立と、また、機能分担した中央図書館との緊密な連携に基づいた一体感ある運営、サービスが求められている。

多摩図書館は、開架閲覧制のメリットを最大限追究し、検索ツールの充実等を行いながら、顧客満足度の更なる向上を目指す。また、PR 活動、企画展示等旺盛な情報発信を当館の知名度アップにつなげ、積極的に都民の方の利用を促進できるよう本年 5 月の開設に向けて、様々な PR や取組の工夫を行い、多摩から知の発信をしていきたい。

## 10 日比谷図書館の千代田区移管

### 日比谷図書館

#### 1 移管の合意

平成20年10月14日、東京都教育委員会と千代田区教育委員会は、移管の基本的な方向性について合意し、覚書を交わした。平成17年8月に東京都教育委員会が公表した第二次都立図書館あり方検討委員会報告『都立図書館改革の基本的方向』において、「個人貸出サービスを中心に業務運営を行っている日比谷図書館は区市町村立図書館とサービス内容が重複しており、都と区市町村との役割分担の観点から見て、地元区に移管することを検討すべきである」との指摘がなされて以来都・区のエデュケーショナル委員会が移管に向けての協議を行ってきたが、3年を経て合意に至ったわけである。これにより、日比谷図書館は平成21年4月から休館し、7月に千代田区に移管されることとなった。

#### 2 覚書を受けた対応

覚書公表を受け、日比谷図書館では館内に掲示するとともに、都立図書館ホームページにお知らせを掲載した。

その後1か月の間に約200件の問い合わせがあったが、問い合わせの約20%は、他の場所に移転するのか、日比谷図書館はなくなるのかといった「移管」の意味内容を問うものであった。図書館資料に関しては、現在原則として1県1紙5か月分を開架で閲覧に供している地方紙の継続希望が多かった。移管後のサービス内容の変更についての質問も多かったが、現行図書館サービスの継続・向上に努めることが合意されており、16ミリ映画フィルムを除き資料はすべて区に移管される予定であることを説明した。

12月には、有効なカードを持つ登録者29,059名全員に葉書を送り、移管についてお知らせした。移管については、すでに新聞等で報じられていたが、葉書を見て初めて移管されることを知ったとの反応も何件あった。また、16ミリ映画フィルム団体貸出の登録団体には2月に文書を送り、団体貸出サービスは都立多摩図書館で継続することを知らせた。

日比谷図書館は、出版社の厚意で多くの雑誌の寄贈を受けているが、出版社に対し、謝意を表すとともに今後の寄贈継続をお願いする文書を送付した。

#### 3 開館100周年記念事業

区への移管が決まった平成20年は、日比谷図書館が東京市立図書館として現在地に誕生してちょうど100周年の年であった。関東大震災、戦災の中を守り受け継いできた資料や先駆的なサービスは、現在は都立中央図書館、多摩図書館が継承しているが、この100年の歴史を振り返る展示を11月から行った。(46ページ「日比谷図書館企画展示」参照) また、3月31日まで通常のサービスを行いつつ、休館を控えた3月には映画会、レコードコンサート、図書館ツアー、特別展示会等の記念イベントを集約的にを行い、昭和の温もりを残す日比谷図書館の姿を大勢の方に見ていただいた。

#### 4 区立日比谷図書館へ

覚書公表後、資料や書誌データをどのような形で引き渡すかなど実務的な詰めを千代田区との間で行った。資料は、休館後蔵書点検を行い、千代田区に引き渡すことになる。

千代田区では、有識者、区民等による検討委員会を設けて基本構想について検討を進め、平成21年2月に公表した。区では今後基本計画を策定し、改修工事を行った後、平成22年度末に「(仮称)日比谷図書館・文化ミュージアム」として開館する予定としている。

#### 登録者へのお知らせ葉書

##### 千代田区への移管のお知らせ

日頃ご利用いただき、ありがとうございます。  
日比谷図書館は、平成21年7月に千代田区に移管されることとなりました。ついては、移管準備のため、平成21年4月1日(水)から当分の間休館いたします。

資料の閲覧、貸出等は、平成21年3月31日(火)まで行います。

移管後に千代田区が必要な改修工事を行い、平成22年度中に千代田区立日比谷図書館として装いを新たに開館する予定です。区民でない方もご利用いただけますが、現在お使いいただいている「ひびやカード」はご使用になれません。改めて千代田区立図書館の利用登録が必要となります。大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

長い間のご利用に心より御礼申し上げます。

平成20年12月  
東京都立日比谷図書館

## 2 サービス

### 1 中央図書館は、こう変わりました —リニューアル後のサービスの展開— 情報サービス課

中央図書館は、平成21年1月4日にリニューアルオープンした。どのようにリニューアルしたのか、サービス面について概要を報告する。

#### 1 新たな図書館利用システムの導入

中央図書館では、リニューアルを機に、35年間使用した鋼鉄製の入館証を更新した。新しい入館証は、ストラップで首にかけられるプラスチックカードで、利用者IDにより、時間ごとの来館者数のほか、一人ひとりの入館時刻・退館時刻及び在館時間を機械的に把握でき、統計処理が容易になった。

また、書庫内の図書資料については、蔵書検索の画面上で入館証の利用者IDをバーコードリーダーで読み取ることで自動的に資料請求が行われ、カウンターへ請求票を出さずに簡単に書庫内図書が利用できるようになった。

さらに、開架資料についても、求める資料の位置が示される「書架表示」で、お客様の資料探索にかかる時間を短くした。

#### 2 ワンストップサービスの開始

##### (1) 各種手続の利便性の向上

資料に関わる相談カウンターと、書庫内資料の受け渡し・返却カウンター、複写受付カウンターを1階に集中させ、相談・資料の受け取り・複写の一連の手続が1箇所ですmoothに行えるようにした。

##### (2) お客様に即したレファレンスサービス

1階の「総合案内・相談」カウンターで、複数の司書が相談に応じるほか、2階・3階の資料閲覧室では「案内ホットライン」デスクで、該当する資料を用いながらお客様の求める情報を提供している。⇒15ページ参照

#### 3 重点的情報サービスの充実

##### (1) 「都市・東京情報サービス」の開始

これまで5階にあった「東京室」の資料・情報に、「首都・東京」だけではなく、「都市」の観点を加え、新たな重点的情報サービスとして1階で提供する。⇒17ページ参照

##### (2) すべての重点的情報コーナーを1階へ

これまで中央図書館で重点的にサービスを提供してきた「ビジネス情報」、「健康・医療情報」、「法律情報」の各情報コーナーを1階に集中させた。新たに「都市・東京情報」を加えた4つのコーナーを1階に置くことで、動線を短くするとともに、都立図書館の重点的情報サービスをより効果的・鮮明にアピールし、利用の促進を図る。

また、各コーナーでは、その分野の図書を集中させるだけではなく、関連する雑誌を展示し、図書とともに複合的に利用できるようにした。加えて、それぞれの分野に関連するオンラインデータベースをコーナー内で提供し、利便性を高めている。

#### 4 利用しやすい蔵書配置

これまで各階にあった事務室や書庫を転用することで、開架閲覧スペースを拡充した。

2階には、これまで2階と4階で提供してきた社会科学分野と自然科学分野の資料を合わせて置き、「産業」と「経済」など、関連する資料を同一フロア内で利用できるようにした。

また、3階では、中央図書館の重要なコレクションでありながら、これまで書庫にあってお客様の目に触れる機会の少なかった地方史誌約3万冊のほか、大型の美術書約1万冊、中国語図書・韓国朝鮮語図書4,500冊を開架とした。館内の開架図書がこれまでの約25万冊から35万冊に増えたことで、より多くの資料を直接手に取り、見比べながら利用できる。

#### 5 多様な情報発信のための設備の充実

4階には、新たに「企画展示室」を設けた。東京の魅力や都の施策と関連したテーマで、大型の企画展示をタイムリーに開催するほか、都立図書館の多様な資料を紹介する常設展示も行い、来館のお客様の知的好奇心にこたえる。

5階には、新たに「セミナールーム」を新設した。パソコンを使ったセミナーや連続講座、ビジネス・法律等に関する相談会、図書館探検ツアー等を企画開催し、図書館からの情報発信の基地とする。

## 中央図書館のワンストップサービス ー新たなサービス体制の構築ー 情報サービス課

### 1 各種手続の利便性の向上

#### (1) カウンターの集中

これまで主題室ごとにそれぞれのカウンターで行ってきた書庫内資料の申込み・返却の手続を、特別文庫等の特殊資料を除いては図書・雑誌の区別なく、すべて1階の「資料お渡し・返却」カウンターで受け付ける。

1階には「資料お渡し・返却」カウンターのほか、「総合案内・相談」と、「複写受付」の3つのカウンターを集中させ、相談・資料請求・複写の一連の手続を1箇所でスムーズに行えるようにした。

#### (2) 書庫内資料請求の簡便化

書庫内の図書については、新たな図書館利用システムの導入により、自動出納申込みを実現した。蔵書検索の画面で入館証の利用者IDをバーコードリーダーで入力し、「利用申込」ボタンを押すと、1階の「資料お渡し・返却」カウンターの中に直接請求票が打ち出されるしくみで、館内のどの蔵書検索用パソコンからでも簡単に書庫内図書の請求ができる。

雑誌については、複数冊を合わせて製本してあるなど、物理的な単位とデータ上の単位が一致していないものが多く、自動出納のしくみになじみにくいため、これまでどおり、お客様自身による請求票打ち出し又は手書き請求票による申込みとした。

住宅地図等の一部資料を除き、書庫内資料はこれまでの2倍の12冊まで一度に利用できるようにした。

請求した書庫内の図書・雑誌の準備ができると、館内各階に設置された電光掲示板に入館証の番号が表示される。カウンターの近くで番号の呼び出しを待たずにより、時間を有効に活用できる。

#### (3) 「書架表示システム」の導入

開架の資料については、蔵書検索の画面上で「利用申込」ボタンを押すと、求める資料が何階の閲覧室のどの書架にあるか、おおよその位置が表示される。これをプリントアウトした案内図を見ながら、お客様自身で資料を簡単に探し出すことができる。

#### (4) 複写申込の簡便化

複写の申込みについては、書名が印字された複写申込書を館内のどの蔵書検索用パソコンからも打ち出しできるようにし、書名や資料IDを記入する手間を大幅に省いて利便性を高めた。

複写室の職員による複写の場合は、複写が終わると、各階に設置された電光掲示板に複写受付番号が表示され、館内のどこにいても複写物の準備ができたことがわかるようになっている。

### 2 お客様に即したレファレンスサービス

#### (1) 「総合案内・相談」カウンター

これまで各主題室のカウンターで行ってきた資料に係る相談（レファレンス）を、分野に関わらず、1階の「総合案内・相談」カウンターで受け付ける。カウンターには、担当主題分野の異なる複数の司書職員を配置し、お客様一人ひとりの調査の目的やテーマに合わせて、きめ細かくじっくりと対応する。また、必要に応じて開架閲覧室の書架へお客様と同行し、目的の資料だけではなく周辺資料も含めて多角的に案内する。

「総合案内・相談」カウンターの後方には、電話やEメールによる相談を受け付け、調査回答を行う、ガラス張りの電話センターと事務室を置いた。カウンターの職員と後方の職員は相互に協力し、お客様の案内でカウンターから職員が離れた場合には、必要に応じて電話センターや事務室内の職員がカウンターを支援し、お客様を待たせない。

また、カウンターの外側にも職員を1名配置して、全館の総合案内や資料に係る相談に応じるとともに、カウンターと後方職員に目配りし、スムーズな連携を調整・指示する体制とした。

#### (2) 「案内ホットライン」

1階の重点的情報コーナー及び2階・3階の閲覧室には「案内ホットライン」のデスクと電話を置き、お客様がワンタッチダイヤルで直接、電話センターの司書職員に相談できるようにした。電話を受けた職員は直ちにお客様の元へ赴き、「案内ホットライン」デスクのパソコンを使って、じっくりと相談に応じる。

また、「案内ホットライン」は、予め電話やEメールで相談されたお客様に、調査で利用

した資料を紹介しながら調査プロセスや結果を説明する、「予約レファレンス」を行う際の拠点とする。各フロア内にあって親しみやすく、開架資料が間近にあるという利点を活かし、司書職員による懇切丁寧な相談（レファレンス）をお客様にアピールする場とする。

### (3) フロア案内

各階の開架閲覧室にはフロア案内を専門に行う委託スタッフを配し、本の配置場所や蔵書検索用パソコンの操作方法、館内の利用案内などについて、気軽に尋ねられるようにした。また、フロア案内スタッフは館内の開架書架や検索パソコンなどの利用環境を整え、迷惑行為等を抑止する役割も担っている。

ただし、資料に係る相談（レファレンス）は司書職員が専門に行うこととし、案内スタッフがフロアで相談を受けたときは速やかに職員へ連絡し、対応を引き継ぐ体制とした。

### 3 リニューアル後のレファレンスサービス例

カウンター及び職員を1階に集中配置し、カウンター職員と電話センター・事務室職員とが、相互に協力して、迅速なお客対応を行う。

<利用者A>（職員②が対応）

1階の「総合案内・相談」カウンターで質問 ⇒ 関連の資料がある3階へ職員②とともに移動⇒ 「案内ホットライン」に書庫内の図書を取寄せ、開架の棚から出した図書とともに職員の説明を受ける。

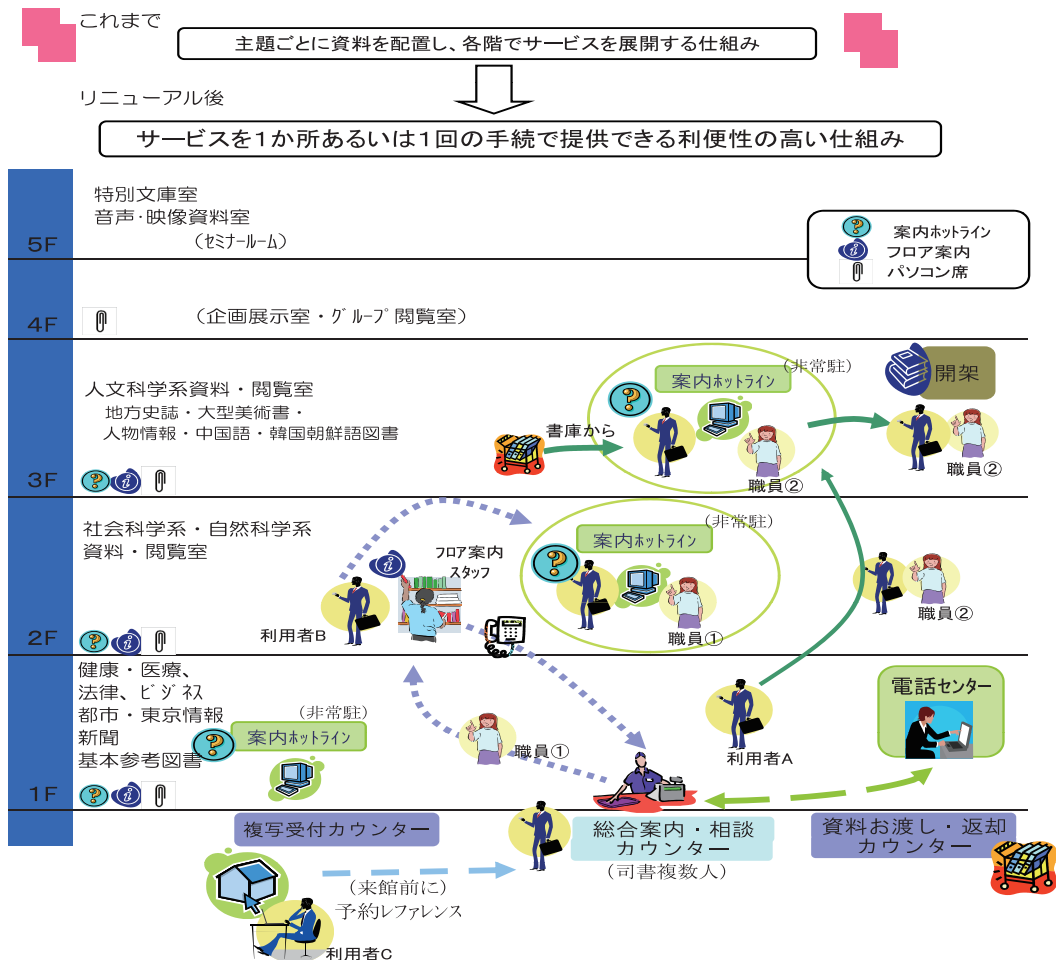
<利用者B>（職員①が対応）

2階でフロア案内スタッフに質問 ⇒ スタッフから職員へ連絡 ⇒ カウンターや事務室から職員①が駆けつける⇒ 案内ホットラインを使ってじっくり相談する。

<利用者C>

電話またはEメールで調査依頼 ⇒ 調査の結果を見て、相談を予約してから来館する ⇒ 調査プロセスや結果の説明を受け、資料を閲覧する。

### <リニューアル後のレファレンスサービス>



### 3 都市・東京情報サービスの実施に向けた取組

#### 情報サービス課

中央図書館では、リニューアルオープンに当たり、これまで実施してきた「ビジネス情報サービス」、「健康・医療情報サービス」、「法律情報サービス」の3つの重点的サービスに「都市・東京情報サービス」を加えて、利用度の高い資料を1階に集中し、サービスを開始した。

#### 1 「都市・東京情報コーナー」設置まで

郷土資料や行政資料などの地域資料サービスは、課題解決型図書館サービスの重要なサービスの一つとして、近年注目されている。<sup>1</sup>中央図書館では、これまで、5階に「東京室」を設け、東京の行政資料及び東京に関する資料を幅広く提供してきた。

郷土資料は、地域の歴史や特性を知り、郷土愛を育むものとして、行政資料は暮らしや産業、社会の問題を解決するための情報源として重要であり、積極的に提供したい資料である。

今日、オリンピック招致活動や都市再生などにより、東京への関心が一層高まっている。そこで、東京に関する情報を提供するだけでなく、江戸・東京と受け継がれてきた魅力ある芸術・文化活動を、都民や世界に情報発信していくサービスを重点的サービスと位置づけ、<sup>2</sup>平成19年度より実施に向けた検討を行った。「都立図書館改革の具体的方策」では、「東京室」を、東京の情報センターとして拡充し、さまざまな媒体や切り口で、情報の発信を行うとしている。同時に、日々ダイナミックに変化し成長していく「都市」についての情報を、多様な角度から重点的に提供するとしている。これらをどのように実現していくかが課題であった。

これらの資料を提供する具体的方法として、「東京と都市に関する資料」「国内都市に関する資料」「世界の都市に関する資料」の3つのコーナーをつくることとした。

東京の大都市としての側面、首都としての機能などにも着目し、大局的に東京を理解し、外部から見た東京の魅力を知り、全国や世界の都市と共通の問題を考えるコーナーとなるよう、配置する資料の選定を行った。

#### 2 コーナーの概要

##### (1) 東京と都市に関する資料

「都立図書館改革の具体的方策」にうたわれている「都市」についての情報は、①「都市産業」、②「都市環境」、③「都市文化・世相」である。この3つのテーマを「都市政策」「都市計画」「都市の産業」「都市の交通」「都市の文化」「都市観光」「都市の環境」「都市の安全」「コミュニティ」の9分野に分け、固定的な分類によらず、関連の高い資料を集めた。都市の機能や都市が抱える問題を理解し、都市のこれからを考えるためのヒントとなるようなコーナーを目指した。

このコーナーには、その分野の東京に関する資料と一般の資料を併せて置き、その分野の東京の状況や取組がわかるようにした。各分野の資料は2階、3階の当該分類の棚にもあるので、2階、3階の資料へのショーウィンドウともなっている。



都市・東京情報コーナー

##### (2) 国内都市に関する資料

国内都市については、政令指定都市全17都市を取り上げ、都市ごとに資料を配した。

各市の資料を集めて見ると、都市に共通の課題と地域に根ざした固有の課題があることがわかる。

出版状況の違いもあり、資料が少ない都市もあるが、今後、行政資料や地方出版物の出版情報の探索に一層力を入れ、収集担当部門と協力し充実を図りたい。

<sup>1</sup> 「これからの図書館像」文部科学省 平成18年3月、「地域資料に関する調査研究」国立国会図書館 平成20年3月

<sup>2</sup> 「都立図書館改革の具体的方策」東京都教育委員会 平成18年8月



国内都市に関する資料

### (3) 世界の都市に関する資料

一口に世界の都市といってもその数は多く、どのような基準で選び、資料を揃えるかが課題であった。平成19年度に利用者アンケートを実施し、ローマ、ロンドン、パリ、ニューヨークなどの都市に関心が高いことがわかった。それに加え、C40Cities (気候変動会議) やアジア大都市ネットワーク 21 など国際的な会議参加都市から取り上げる都市を選んだ。結果、アジアの都市を多く取り上げることができた。各都市は、日本語資料と外国語資料を併せて配した。外国語資料を積極的に集めてきた都立図書館ならではのコーナーにすることができた。アジアやアフリカの都市の資料は少なく、断念せざる得ない都市もあった。今後、資料の充実に努め、取り上げる都市を増やしていきたい。



世界の都市に関する資料

### (4) 東京と都市に関する雑誌

中央図書館の雑誌サービスは、書庫出納によるサービスが原則であったが、重点的情報サービスの各コーナーでは、関連分野の雑誌を開架でサービスすることにした。

「都市・東京情報コーナー」の雑誌は、『都市計画』『都市とガバナンス』など都市に関する一般誌、『東京人』『散歩の達人』『東京生活』など東京を扱った情報誌、『銀座百点』『日本橋』などタウン誌と多様なものを揃えた。書架の前にソファを用意し、ゆっくり閲覧で

きるようにした。

### (5) 東京に関する幅広い分野の資料

東京の行政資料や東京に関する資料は、都市東京情報コーナーの核となる資料群である。わかりやすい書架見出しなど探しやすいコーナーを工夫するとともに、ミニ展示等で東京関係資料の魅力を発信する試みも行っている。全体として、多くの資料の表紙を見せるようにしたため、利用者の関心も高くなった。

また、多摩図書館から地域資料を移管し、東京全域の資料を一元的に利用できるようにした。今後、東京の各地域の資料収集に一層力を入れていきたい。

東京都産業労働局観光部の協力で、「エリアマップ」を配布するなど、東京都関連のリーフレット等を配布しているが、好評である。



ミニ展示「東京マラソン」

## 3 今後の課題

新たなコーナーは、資料の鮮度が重要である。タイムリーな資料の選定に努めたい。

東京の様々な活動をすばやくキャッチし、資料・情報を確実に提供していくため、東京都各局はじめ関連団体等と一層の協力を図っているところである。

今後、東京からの情報発信基地として、東京都の事業はもちろん東京に関する情報を、図書、雑誌、新聞、パンフレット、デジタル資料とメディアを問わず提供していきたい。



東京と都市に関する雑誌

## 4 重点情報サービスの推進

### (1) ビジネス情報サービス

#### ―改修工事中でも知恵と工夫で“継続”― 情報サービス課

##### はじめに

都立中央図書館では平成15年6月、重点情報サービスの草分けである「ビジネス情報(支援)サービス」を、全国に先駆けて開始してから、今年度で6年目の実施となる。

これまで、ビジネス情報コーナーの設置、ビジネス・起業創業相談会や企業活性化に関する講演会、就職活動セミナー等のサービスを継続実施し、充実・拡大してきた。

改修工事中の12月までは、臨時閲覧室での施設的にも資料的にも限られた中でのサービスであった。折しも、サブプライムローン破綻の影響で世界的な経済不況となり、日本の労働市場も大きな打撃を受けた。利用者のビジネス情報ニーズが変化していく中、利用者ニーズに少しでも多くこたえようと創意工夫し、以下のようなサービスの継続と充実に努めた。

##### 1 ビジネス・起業創業相談会

(財)東京都中小企業振興公社、(社)中小企業診断協会との連携・協力で継続実施している相談会も、3年目を迎え、恒常的なサービスとして定着してきた。しかし、今年度は臨時閲覧室での利用者数が1日平均200名程であったため、館内でのPR効果が薄く、プレス発表や『広報東京都』での発信の他、港区の掲示板や23区の経済・産業主管課への通知、東京メトロ沿線だより、東京都や図書館のホームページでの発信、メルマガ等による館外への広報に力を注いだ。

また、研修室すべてを臨時閲覧室として使用したため、4階の救護室を急遽相談室として使用した。狭く窓も無く圧迫感があるため、実施日には緑の鉢や赤いセントポーリア等の花を置いて、部屋の空気を和ませるよう工夫した。

結果として改修工事中の相談者は10回28名、1回は、申込者の直前のキャンセルにより中止した。リニューアル後は順調な申込みで毎回4名の相談者があり、全体では14回44名の参加者であった。

相談の内容も、かなり具体的なものが多い。例えば「輸入品の通信販売を起業したい」、「海外で日本茶を販売する事業を起こした

い」等のほか、工場の事業継承、創業を考えはじめたばかりの方等、図書館の敷居の低さの利点による相談も多い。今年度は限られた環境でも知恵と創意工夫で継続でき、平成21年度につながられる実績を得た。

##### 2 就職活動セミナーの継続実施

今年度の就職活動セミナーの当初計画は、(財)東京しごと財団との連携・協力により、9月に若年層を対象としたセミナーを実施、2月にはシニア対象のセミナーを実施する予定であったが、公的機関からの講師選定が難問であったことと、折しも経済不況の中で派遣切りや就職内定取消し等、若年層の就職難がクローズアップされた事もあり、再度ニーズの高い若年層対象の就職活動セミナーを開催することとした。

##### (1) 「キラリと光る企業を探そう@図書館 2008―就職に役立つ企業情報の収集」

平成20年9月18日(木)午後2時から4時30分まで 会場:都立日比谷図書館4階会議室 講師:小原伯夫氏(就職支援アドバイザー、中小企業診断士 他)参加者数81名(募集定員50名)

##### (2) 「自分にピッタリの企業を探そう―図書館の情報資料を使いこなすコツを伝授します」

平成21年3月6日(金)午後2時から4時30分まで 会場:都立中央図書館4階多目的ホール 講師:金順玉(きむ すのう)氏(中小企業診断士、消費生活アドバイザー)参加者数59名(募集定員60名)

このテーマは毎年実施していても、「また開催してほしい」とニーズが高く当館のビジネス情報資料のPRにもつながるため、今後とも内容を検討しつつ継続実施していく。

##### 3 その他のサービス

その他都内区市町村立図書館職員対象のビジネス情報レファレンス研修やリニューアルオープン記念企画展への「広告の歴史」の展示、開館後再開したTSRやTKC等の企業業界情報のDBの検索セミナー等、継続実施に努めている。

改修工事に伴う臨時閲覧室でのサービスは、限られたスペースと資料でいかにサービスの充実を図るかが課題であったが、結果的には、担当職員のスキルアップにつながり、有意義な実務経験となった。

---

## (2) 健康・医療情報サービスの充実・拡大 —利用者ニーズにこたえたサービスの提供— 情報サービス課

---

### はじめに

都立中央図書館では、平成 16 年 6 月、都民の健康・医療情報への高いニーズにこたえ、健康で豊なくらしづくりを支援する「健康・医療情報サービス」を全国に先駆けて開始した。

健康・医療情報コーナー設置に始まり、闘病記文庫の開設、講演会や健康相談会、資料展示会や DB の検索セミナー等、サービスの充実を図り、今年で 4 年目の実施となった。

今年度はワンストップサービスに伴う改修工事のため、事業実施の多くを日比谷図書館を会場として実施したが、改修工事中もリニューアルオープン後も、利用者の健康・医療情報への関心は高く、ニーズにこたえたサービスの提供に努めた。

### 1 健康・医療情報公開講座の開催

#### “利用者ニーズを捉えたテーマに反響大”

- (1) 平成 20 年 7 月 26 日 (土) 講演会「アンチエイジングの実践」を日比谷図書館地下 1 階講堂で開催。講師は抗老化専門の研究者で (財) 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所の研究員、清水孝彦氏。折しも世の中がアンチエイジング情報の最盛期でもあり、多くの申込みにお断りを余儀なくされた。参加者は 210 名
- (2) 平成 21 年 2 月 21 日 (土) 講演会「うつ病とメンタルヘルスドクターに聞く基礎知識」を開催。講師は、東京都中部総合精神保健福祉センターにおいて現場で活躍する精神科医師、井上悟氏。同じテーマで開催した昨年同様、申込みが殺到し、あっという間に定員をオーバーした。このテーマは、常にニーズが高い。定員 80 名、応募数 140 名、参加者 91 名 ▼講演風景：アンチエイジング



### 2 健康相談会「まちの保健室」の開催

平成 19 年度から開始した東京都看護協会との連携協力による健康相談会「まちの保健室」は、回を重ねるごとに協会の対応や当係の医療情報担当のスキルアップもあり、スムーズなサービスが提供できるようになっている。

- (1) 平成 20 年 8 月 23 日 (土) 33 名参加

平成 20 年 9 月 20 日 (土) 43 名参加

両日は、日比谷図書館を会場とし公会堂のイベント待ちの若い来館者が多く参加し、新たな層への PR が出来た。

- (2) 平成 21 年 3 月 7 日 (土) 37 名参加

リニューアルオープン後初めての相談会で、日比谷図書館で実施した際とは異なり、年齢層が高く男性が多いが、内容の濃い相談会となった。健康相談会は、健康・医療情報サービスの中に占める位置が確立されてきた。今後も看護協会との連携を強め継続実施していきたい。

### 3 闘病記文庫の充実拡大

闘病記文庫は平成 17 年 6 月、健康情報棚プロジェクト (以下「棚プロ」という。) の寄託により全国に先駆けて開設し、多くのマスコミに取り上げられて来た。

今年度は、リニューアルオープンに向けてさらに闘病記文庫の充実を図るため、棚プロの手を離れ都立図書館独自の蔵書で構成された約 1,500 冊の闘病記文庫として完成させた。

また、件名に「闘病記」と「病名」を入れる事で検索可能とし、「病名一覧」(50 音順、病気分類順) や「闘病記文庫リスト」等も整備して利用者の便宜を図った。

### 4 その他のサービス

その他、講演会や相談会には必ずニーズの高いテーマで資料展示を行い、ブックリストを提供し好評を得た。また、リニューアルオープン後、DB の検索セミナーの再開や、健康・医療情報コーナーの充実に創意工夫を重ねるなど、ワンランクアップのサービスを目指して取り組んでいる。

健康と医療に関する関心は、人間にとっては永遠に尽きる事の無いテーマである。今後益々進む高齢化社会も念頭に入れ、関連機関との連携を密にして、サービスを充実したい。

### (3) 法律情報サービス

#### —司法制度改革の中で求められる法律情報—

#### 情報サービス課

#### はじめに

平成 13(2001)年 11 月、司法制度改革推進法が成立し、大幅な司法制度改革が進んでいる。その 1 つである裁判員制度が平成 21 年 5 月から開始されるに伴い都民の法律情報のニーズが高まり、公立図書館への期待が大きくなっている。利用者の法律情報への「アクセス」と「学び」を支援しサービスを拡充するため、今年度は以下のサービスを実施した。

#### 1 無料法律相談会の実施

日本司法支援センター東京地方事務所（以下「法テラス東京」という。）や東京司法書士会と連携して、都民の身近な法律問題の解決を支援するため、弁護士や司法書士による法律相談会を実施した。

##### (1) 弁護士による無料法律相談会

平成 20 年 4 月 16 日（水）午後 1 時から 4 時まで 会場：都立中央図書館 4 階研修室 相談者：法テラス東京派遣弁護士 5 名 内容：弁護士による個別面談方式 1 人 30 分 参加者 30 名

##### (2) 司法書士による無料法律相談会

平成 21 年 2 月 18 日（水）午後 5 時から 8 時まで 会場：都立中央図書館 5 階セミナー ルーム 相談者：東京司法書士会港支部派遣司法書士 10 名 内容：司法書士による民事の法律相談 個別面談方式 1 人 30 分から 1 時間 参加者 15 名

#### 2 法律情報サービス講演会

##### (1) 第 1 回法律情報サービス講演会「知っておきたい相続・遺言・成年後見の知恵」

平成 20 年 10 月 1 日（水）午後 2 時から 4 時 30 分まで 会場：都立日比谷図書館 4 階大会議室 講師：若江健雄（法テラス東京副所長 弁護士） 内容：相続・遺言や成年後見は殆どの人にとり、いつかは対応せざるを得ない問題である。古くて新しいこのテーマは常にニーズが高く、都民の課題解決のための

「学び」を支援するため、弁護士が分かり易く解説した。参加者 71 名

##### (2) 第 2 回法律情報サービス講演会「多重債務問題についてともに考える—解決の糸口・債務整理の方法と心得」

平成 21 年 3 月 13 日（金）午後 2 時から 4 時 30 分まで 会場：都立中央図書館 4 階多目的ホール 講師：遠海陽子（東京司法書士会港支部副支部長 司法書士） 内容：多重債務問題は大きな社会問題になっているが、債務の整理の方法と心構えについて司法書士が分かり易く説明した。参加者 21 名



講演会「相続・遺言・成年後見の知恵」

#### 3 法律情報レファレンス研修の実施

##### (1) 区市町村立図書館職員対象のレファレンス研修

平成 20 年 7 月 3 日（木）午後 1 時 30 分から 5 時 会場：都立中央図書館 4 階臨時閲覧室 内容：法律情報担当職員による法令情報・判例情報の講義、演習、演習解説。サービス開始のノウハウ等についても情報提供することができた。参加者 33 名

##### (2) 国立国会図書館「法令・議会・官庁資料研修」の「公共図書館における法情報サービス」での研修講師

平成 21 年 2 月 6 日（金）午前 10 時から 11 時 30 分 会場：国立国会図書館 派遣講師：法律情報サービス担当職員 2 名 内容：都立中央図書館の法律情報サービスについて、具体的な取組やレファレンス事例を説明し好評を得た。参加者 33 名

#### 4 その他のサービス

リニューアルオープン後再開した DB の検索セミナーでは、「D1law」「Lexis Nexis Jp」「官報情報検索」「新判例秘書」等の検索方法を案内している。

裁判員制度の開始は、国民に法律を身近なものにした。誰でもが気軽に必要な法情報が得られるよう、より多くの機会を提供し、サービスの充実を図りたい。

## 5 人文科学系資料・閲覧室の紹介

### 情報サービス課

#### 1 はじめに

中央図書館3階の旧人文科学室ではリニューアルに伴いそれまでの事務室と書庫を開架閲覧室に変更し、特に利用者ニーズの高かった地方史・美術書を書庫から大幅に開架とした。また各階に分散していた中国語資料、韓国・朝鮮語資料を3階に集中した。

利用しやすい蔵書配置として以下の3つのコーナーを新設した。

#### 2 地方史コーナー

##### (1) これまでの経緯

当館の地方史誌コレクションは、旧日比谷図書館時代に首都圏を中心に収集する方針で始まった。中央図書館開館後、収集範囲を拡大し、現在も道府県史・市町村史の収集に努めており、総数は5万件に達した。これらの地方史誌の多くは閉架で保管され、出納方式で利用に供されていた。

平成17年6月、特に利用頻度の高い県史を中心に約1,000冊を開架して、地方史コーナーを3階に設置した。一方、大部分の地方史誌は閉架のままであり、出納方式が維持された。

今回のリニューアルオープンに合わせ、より利用しやすくするために閉架資料を大幅に開架に変更した(約3万冊)。また、旧地方史コーナーにあった資料(道府県史)に主要な参考図書等を加えた約1,200冊を一箇所に集め、県史コーナーとした。

##### (2) コーナーの概要

ア 場所…3階人文科学系資料・閲覧室

イ スペース…複式書架13列182連

ウ 地方史誌を利用する助けとなる各種リーフレットの作成・配布

- ・地方史コーナーの御案内
- ・都道府県別百科事典一覧
- ・道府県別人名事典類一覧
- ・地方年鑑リスト
- ・都立図書館所蔵 地方史関係雑誌リスト
- ・県史コーナーの〈道府県史リスト〉

##### エ 備付けリスト

- ・県別地方史誌目録

(青森県、山梨県、福井県、佐賀県)

昭和58～60年に『地方史誌関係図書目録』(本編・書名索引編)を発行し好評を得た。

発行後の収集資料をカバーする目録。

##### オ ホームページへの掲載

上記ウ、エのリスト類を、当館ホームページ

「県史・市町村史の御案内」に掲載した。

今後も資料を充実させると同時に、利用者ニーズにあわせて、より利用しやすい形で提供できるように工夫を図っていきたい。



地方史コーナー

#### 3 美術情報コーナー

##### (1) 開設の経緯

昭和48年の開館以来、旧人文科学係は書誌作業のひとつとして、西洋絵画の図版を探すツールである美術全集類の索引作業を行ってきた。平成11年にはカード体のものを基に『西洋美術全集絵画索引』を刊行した。また、『西洋個人画集索引』や『西洋絵画索引―単行書・展覧会カタログ編』のデータベース化も行なうなど、美術関連のレファレンスにおいても長い実績を積み重ねてきた。

リニューアルオープンの資料再配置計画の中で、利用者の利便性をより高めるために、大型美術書のコーナーをつくり、開架の資料を増やして、“美術情報サービス”を前面に打ち出すこととした。

美術情報サービスの利用者を①特定の主題の絵や図版・写真を探したり、美術分野の調査をしたりしている人たち(課題解決、ビジネス支援)②美術に興味・関心があり、知的好奇心を満たしたい人たち(リピーター及び新規利用者の発掘)ととらえ、書庫から、各分野の定評のある全集やシリーズ、画家の画集(2冊本以上)やカタログレズネ(画家の作品総目録)などを中心に選定した。資料の

状態の最終点検を経て約3,600冊を新たに開架資料とした。その結果、開架の大型美術書は従来の1.5倍の、10,000冊の規模になった。

これらの図書は、専用の低書架に、旧事務室部分を活用してコの字型に配置した。一人用の閲覧席を窓辺に配置し、ゆったりとした閲覧環境とした。コーナー全体はこの大型書の一面と従来の通常サイズ用の高書架群から成っている。



美術情報コーナー

#### (2) コーナーの概要

##### 《豊富な資料》

美術関連図書約63,000冊。うち、開架資料は約18,000冊である。

展覧会カタログや自治体発行資料なども含めて、積極的な資料収集に努めている。

##### 《データベースの提供・紹介》

専用パソコン1台を設置して①当館作成の『西洋美術全集絵画索引』及び続編のデータベース『西洋絵画索引・単行書・展覧会カタログ編』『写真集データベース』などのツールの活用を宣伝していくとともに、新たなツールの充実を図る。②「美術館図書室横断検索」や便利な美術情報のサイトを掲載し、その利用を促進する。

##### 《レファレンスサービス》

レファレンスサービスを積極的に進めるために、調査資料案内リーフレットや各種のリストを作成する。また、室内展示ケースを利用したタイムリーな展示を行う。

##### 《美術展覧会情報》

「あ・ら・かるちゃー」や「港区ミュージアムネットワーク」加盟館などの美術展パンフレットや美術関係のフリーペーパーを収集・配布する。

#### (3) 今後に向けて

「美術館図書室横断検索」加盟機関、国立新美術館などの近隣の美術館や団体との連携を図りながら、当館独自の美術情報サービスを発展させた

い。

### 3 中国語、韓国・朝鮮語資料コーナー

#### (1) 概要

当館のリニューアルに合わせて、これまで各階に置かれていた中国語資料と、1階に配置されていた韓国語・朝鮮語資料を3階にまとめ、「中国語、韓国・朝鮮語資料コーナー」を開設した。

昭和47年度から購入を始めた中国語資料数は、平成21年1月現在約58,000冊、そのうち約4,200冊を開架している。資料は0門の辞書類から9門の文学まで全分野を並べている。出版地は中国大陆だけでなく台湾など中国語文化圏全般にわたっている。最近の印刷技術の進歩により、大型の本やカラーの彩りもきれいな図書が並ぶようになった。

昭和50年度から購入を始めた韓国・朝鮮語資料は、平成21年1月現在約16,000冊所蔵、そのうち約1,400冊を開架している。韓国と北朝鮮から発行された資料を、百科事典や統計白書などを中心に、全分野にわたって並べている。

#### (2) 検索について

中国語、韓国・朝鮮語資料については、都立図書館の蔵書検索システム(Metlics)が多言語に対応していないため、平成17年度から国立情報学研究所の<NACSIS Webcat>に加入している。書庫の資料は、館内の1階と3階に設置しているマルチ検索パソコンにより、この<NACSIS Webcat>で都立図書館の請求記号を確認し出納を依頼する形である。コーナーには、国立情報学研究所のシステムに加入するまで当館で作成していた、冊子目録、カード目録(中国書のみ)、コーナーの開架図書リストなどを用意し、蔵書の全体像を利用者が把握できるよう努めている。



中国語、韓国・朝鮮語資料コーナー

## 6 NACSIS-CAT 遡及入力終了と中国語、韓国・朝鮮語コレクションの現況

### 資料管理課

都立図書館では、昭和 47（1972）年度から中国語図書、昭和 50（1975）年度から韓国・朝鮮語図書の収集を開始した。平成 17 年度に、カード目録を中心とした整理から、国立情報学研究所(NII)の NACSIS-CAT（目録所在情報サービス）を利用した整理に移行した。平成 16 年度以前に整理済みの図書の NACSIS-CAT への遡及入力を実施、平成 20 年 11 月に遡及入力を完了した。ここでは遡及入力終了と最近のコレクション状況を報告する。

#### 1 遡及入力の終了

平成 16 年度以前に整理した図書、約 70,000 冊（中国語 55,000 冊、韓国・朝鮮語 15,000 冊）を対象とした NACSIS-CAT への遡及入力は、平成 17 年度に開始し、平成 20 年度に終了した。平成 17 から 18 年の進捗状況は、『都立図書館報』通巻 156 号で報告している。

当初は 10 年計画規模で想定していたが、平成 17 から 18 年度の NII による入力支援事業（30,000 冊）や平成 17 年度以降の都立図書館による入力（約 39,000 冊）などを組み合わせることで、4 年間に短縮して実現することができた（表 1）。

表 1 事業主体別入力冊数の推移

| 事業主体  | 17 年度  | 18 年度  | 19 年度  | 20 年度 |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| NII   | 13,000 | 17,000 |        |       |
| 都立図書館 | 4,204  | 10,002 | 16,385 | 8,509 |
| その他   | 1,190  | 168    |        |       |

言語別では、平成 17 から 18 年の 2 年間で、韓国・朝鮮語図書 15,000 冊すべてを完了した。中国語図書は平成 18 年までに全体の 55%を入力し、平成 19～20 年度で入力を完了した（表 2）。

表 2 平成 19～20 年度の中国語入力冊数

|     | 19 年度  | 20 年度 | 合計     |
|-----|--------|-------|--------|
| 中国語 | 16,385 | 8,509 | 24,894 |

#### 2 遡及入力終了に伴う効果

平成 20 年度の遡及終了により、当館の全中国語、韓国・朝鮮語図書を Nacsis Webcat Plus 一致検索で検索できるようになった。タイトル、著者名、出版者、国際標準図書記号（ISBN）等による検索が可能である。中国語図書の検索では、漢字統合インデックス機能により、日本漢字による検索ができる。

一方、データ作成面では、この遡及入力の終

了により、課題となっていた多言語環境に対応可能な図書のデータを作成することができた。現在の都立電算システムでは、多言語対応していないため、中国語、韓国・朝鮮語資料を検索することができないが、更新予定の次期システムの多言語環境に向けたデータ準備を整えることができた。

#### 3 中国語、韓国・朝鮮語図書の分野別収集冊数

中国語、韓国・朝鮮語図書をあわせて、年間約 1,200 冊の図書を収集している。

分野別収集冊数の状況は、0 門総記、2 門歴史地理、3 門社会科学、7 門芸術、9 門文学が多い（表 3）。

表 3 中国語、韓国・朝鮮語図書冊数（19 年度）

| 言語 | 0 門 | 1 門 | 2 門 | 3 門 | 4 門 | 5 門 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 中  | 61  | 31  | 200 | 175 | 29  | 46  |
| 韓  | 32  | 13  | 73  | 75  | 10  | 35  |
| 言語 | 6 門 | 7 門 | 8 門 | 9 門 | 計   |     |
| 中  | 35  | 89  | 37  | 120 | 823 |     |
| 韓  | 9   | 40  | 15  | 52  | 354 |     |

「都立図書館改革の具体的方策」（平成 18 年 8 月策定）による、蔵書の充実計画に基づき、外国語資料の資料費の増額が行なわれ、日本語資料では得られない知識・情報の都民への提供、一層のコレクションの充実を目指している。

#### 4 都立中央図書館リニューアルに向けた準備

当館はワンストップサービスによるサービス向上を図るため、平成 21（2009）年 1 月にリニューアルオープンした。ビジネス、法律、医療、都市東京情報などの重点サービス分野の資料は 1 階に集中配架した。あわせて 3 階に中国語、韓国・朝鮮語資料コーナーを新設し、中国語図書 4,200 冊、韓国・朝鮮語図書 1,400 冊を配架した。韓国・朝鮮語図書については、旧整理図書を、NDC9 版による分類付けを行い再整理した。

#### 5 今後の課題

蔵書の充実による資料費の増額を生かした、中国語、韓国・朝鮮語図書の PR や利用促進が課題である。まず、平成 20 年度は、都立図書館 HP の「資料の保存・収集」のページに新着図書リスト PDF ファイル（平成 20 年（2008）年 4 月から 12 月分）の掲載を開始した。今後も 3 か月ごとの発信を予定している。

引き続き、都立図書館の外国語コレクションの充実と PR、新たな利用者の開拓等、利用促進に向けた努力を続けていきたい。

## 7 日比谷図書館のサービス評価の試み

### — サービス指標を用いて —

#### 日比谷図書館

##### 1 はじめに

日比谷図書館は、平成 18 年度に日比谷独自の指標について検討を開始し、18 項目の指標を定めた（『都立図書館報』第 156 号参照）。その後、平成 19 年度に数値を取得し、平成 20 年度に評価を行った。

##### 2 サービス評価の方法

- (1) 取得した数値を基に、主として他館との比較により、また、必要に応じて 5 年間の経年推移を調べ、サービス水準を可能な限り数値化した。
- (2) 比較対象館は、規模の大きい大阪府立及び関東近県（神奈川、千葉、埼玉）の県立図書館（以下「府県立」という。）とした。また、日比谷図書館は貸出図書館の性格を持つため、都内の市区町村立中心館 53 館とも比較した（以下「市区町村立」という。）。必要に応じて全国の県立図書館等の数値を参照した。
- (3) 他館の数値の取得や分析に調査協会が必要な場合もあるが、今回はインターネット上の情報など公開データのみを用いた。
- (4) 取得した数値や参照したデータから、日比谷図書館のサービスの特質や水準を考察・評価した。

##### 3 サービス評価の概要

###### (1) 利用と費用対効果

指標① 1 来館者又は 1 利用当たりの費用は約 500 円という結果が出た。指標②「人口千人当たり来館者数」は、ほぼ 50 人台で推移している。

###### (2) 満足度

指標③「利用者満足度」及び指標④「都民期待度」は、アンケート調査結果から、テーマ展示及び映画会が期待度に比して満足度の平均点数が高いことがわかった。

###### (3) 情報発信

指標⑤テーマ展示については、アンケート調査結果から認知度が 50%以上であることがわかった。指標⑥「ホームページコンテンツ作成数、コンテンツアクセス数」は、取得数値に更新回数分も含まれるため評価できなかった。

###### (4) 所蔵資料

指標⑦「蔵書数」は、図書が全都道府県立図書館 62 館の中では下位から 4 番目であるのに対し、新聞タイトル数では、府県立・市区町村立を合わせた中で上位から 2 番目であった。雑誌は全都道府県立 62 館の中では中位だが、市区町村立では 2 位であった。視聴覚資料のうち、フィルムは府県立との比較で群を抜いていた。指標⑧「分野別蔵書構成」（図書）では、日比谷の蔵書は他府県立に近いが、ビジネスユーザーが多いにもかかわらず、工業・産業分野が少なかった。

###### (5) 貸出（図書）

指標⑨「登録者の地域分布」は『都立図書館報』第 157 号を参照されたい。指標⑩「貸出数」は、分類別蔵書の割合とほぼ一致しているが、文学の割合がやや高めであった。指標⑪「貸出密度」は 7～8 の間で推移しており、比較した府県立、市区町村立の中では下位の方である。指標⑫「蔵書回転率」は、府県立が 1 以下のところを日比谷は 1～2 の間で推移しており、この値は市区町村立では中位にあたる。これらのことから、日比谷は蔵書数こそ少ないがその構成は府県立の特徴を持ち、蔵書回転率は市区町村立の特徴をあわせ持つことがわかった。

###### (6) 新聞雑誌サービス

指標⑬「新聞室、雑誌室の利用者数」は、雑誌室の減少傾向に対して、新聞室が微増している。新聞の充実度が高く利用の比重が高いためと考えられる。指標⑭「複写利用件数」は減少傾向だが、府県立と比較した結果、図書館規模の割に多い。このことは、複写枚数の 80%を占める新聞雑誌の充実度を表していると言える。指標⑮「新聞雑誌の開架率」は他館の数値取得にいたらず、比較できなかった。

###### (7) レファレンスサービス

指標⑯「レファレンス件数」は減少傾向にある。詳細は、『研究紀要』第 36 号を参照されたい。

###### (8) 視聴覚サービス

指標⑰「視聴覚資料の貸出密度」は上昇傾向にある。特にホームページに目録を掲載してから貸出数が伸び、回転率も増加している。指標⑱「映画会実施回数、入場者数」平均入場者は、座席数の 80～90%であった。

## 8 子供読書活動推進事業について 多摩図書館

都立図書館では読書活動と資料に関する専門機関として、子供の読書活動を推進するため様々な事業を行っている。

### 1 啓発資料の作成

平成 19 年度作成の子ども読書活動推進資料「羅針盤—高校生のためのノンフィクション 49 冊」を配布した。この冊子は、高校生に本や読書に対する関心を一層もってもらうため、12 万 5000 部作成し、平成 20 年度都内で高校生になった方に学校を通じて配布した。

A5 版 カラー 18 ページの冊子で、8 つのテーマにわけ本の表紙とともに紹介した。読書は、小説ばかりではない、または知識を得るものばかりではない、もっと広い世界に興味関心を広げてもらいたいと、「ノンフィクション」をとりあげた。



配布に御協力いただいた高校の先生からは、「生徒が興味をひく内容になっている」「ノンフィクションの紹介冊子は少ないので良い」「他の学年にも配りたい」などの感想をいただき、学校図書室用にすべての本を購入したり、生徒に積極的に本を紹介したりと学校での活用にも役だてていただいている。他県からもこの資料の寄贈依頼があるなど、大変好評であった。

都立図書館では、これまで合計 5 種類の東京都子ども読書活動推進資料を編集してきた。小学生の保護者向けに「子どもたちに物語の読み聞かせを」、乳幼児の保護者向けに「しずかなひ

ととき—乳幼児に絵本の読みきかせを」、小学校教員や保育士などの指導者むけの読書推進の手引き「本のよろこびを子どもたちに」、中学生向けに「扉をあけて」そして、高校生向けに「羅針盤」である。

これらの冊子は、都内外から、追加配布の御要望やボランティア、図書館学を学ぶ大学などの子供の読書に関わる方がたから常にお問い合わせをいただいている。今後とも、活用していただければ幸いである。

なお、東京都子ども読書活動推進資料の内容は、都立図書館のホームページに掲載している。

### 2 「科学遊び 独楽(こま)ってふしぎ」の実施

7 月 26 日(土)に「科学遊び 独楽(こま)ってふしぎ」を開催した。多摩図書館では、夏休みの機会を捉え、本や読書に関心を持ってもらうため親子で参加する事業を毎年実施している。今年度は、親子 24 組 28 名の方が参加した。カラフルな模様のもの、こまの「ま」の字のものなど、思い思いに自分だけの独楽ができあがった。重心をうまくとればいろいろな形の独楽ができあがることがわかると、作成のスピードはぐんとあがり、2 つ 3 つと作成に没頭している子供もいた。最後は、全員でいっせいに独楽をまわして廻った独楽の姿の変化も堪能した。出来上がった作品は、写真に取り、後日当館ホームページで紹介した。



その他、いろいろな科学あそびの本の紹介、楽しい実験の実演をすると、親子の歓声があがっていた。

### 3 展示による読書推進活動

年間をとおして、さまざまな資料の展示を実施し児童資料及び青少年資料の紹介をすすめた。テーマ別やニュース記事にあわせての展示、貴重な資料の展示などにより、普段は手に取らない資料にであう機会や、同じテーマのさまざま

な図書を一堂に見る機会を提供し、本の楽しさ、多様性を伝えていく。

- ホームページ掲載テーマ別本の紹介「ほん・本・ごほん」の展示（毎月1テーマ）



- 「10代のきみに贈る105冊の本」  
於 都立多摩図書館企画展示スペース
- 「センス・オブ・ワンダー こどもの科学の本」  
於 都立多摩図書館企画展示スペース
- 「東京都立図書館企画展 緑あふれる東京の再生をめざして」への出展  
於 東京芸術劇場
- 「昔話の宝物―貴重書を中心に」子供読書フォーラム企画展示  
於 東京都多摩教育センター
- 「都立中央図書館リニューアルオープン記念企画展―都立図書館 100 年のあゆみ」への出展  
於 都立中央図書館企画展示室

#### 4 「小さい人のおはなし会」200 回に

平成 15 年 12 月から「小さい人のおはなし会」として、毎週水曜日の午前中に実施してきたが、今年 5 月 28 日（水）に通算 200 回目のおはなし会が開催された。当日は、おはなし会としてはオーバーぎみの 48 名もの参加があった。

おはなし会の対象は、0 歳から 3 歳までの子供と保護者である。参加者は 1 年間、2 年間と継続して参加し、幼稚園等への入園とともに卒会していくことが多いのだが、参加人数は安定的で毎回盛況である。定期的な開催が、実施を定着させるポイントで、「子供の生活のリズム」をつくり、また体調や生活の都合に合わせて「気軽に参加できる」からである。

おはなし会で実施している絵本の読み聞かせやわらべうたは、子供の言葉や心を育てるばかりではなく、親子ともに本の世界の楽しさを知

り、親子のきずなを深めるなどの出会いの場にもなる。図書館が子供や保護者と自然な形でコミュニケーションがとれ、双方にとって情報交換の場になっている。

これまでの実施で培ったポイントやノウハウは、昨年度「乳幼児向けおはなし会実施の手引き」として都内公立図書館に配布した。

今後は、5 月からリニューアルする児童エリアにおはなし会スペースを新たに設け実施する。おはなし会後の図書館利用にもつながることを期待している。



#### 5 その他の事業

その他、都立図書館主催事業として「子供読書フォーラム」の開催や都立特別支援学校との連携事業（詳細は別途掲載）などを実施し、子供の読書に関わる方に情報を提供したり、都立図書館のノウハウを提供したりすることによって子供の読書活動を支援している。また、都内公立図書館児童サービス担当者を対象に、児童図書館専門研修を実施、司書教諭研修において、本の選び方、選書のあり方等について講義・演習を行っている。

#### 6 今後の取組

都立多摩図書館は、工事を経て 5 月からリニューアルオープンするが、児童エリア・青少年エリアもますます充実させ、資料を持つ機関として、子供の読書に関わる学校や区市町村立図書館等に役立つ教材やプログラムを提供していきたい。

また、平成 21 年 3 月 5 日に策定された『第 2 次東京都子供読書活動推進計画』の着実な実施を進めていく。

# 第3 東京都立図書館協議会

## 第23期都立図書館協議会提言 「都立図書館のサービスと図書館改革の 評価について」

### 企画経営課

#### I 第23期都立図書館協議会

都立図書館の諮問機関である第23期都立図書館協議会は、平成18年12月1日に設置された。委員は12名で、任期は平成20年11月30日までの2年間である。第23期のテーマは、「都立図書館のサービスと図書館改革の評価」とし、活発な協議が行われ平成20年11月に提言をいただいた。提言の概要は以下のとおりである。

#### II 提言の概要

##### 1 はじめに

公立図書館の評価については、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成13年7月18日文部科学省告示第132号）に、自己点検・自己評価が規定に盛り込まれた。さらに、平成20年6月11日に公布、施行された図書館法改正においても、運営の状況に関する評価等の実施について規定されている。

都立図書館では、「都立図書館改革の具体的方策」に示された改革を着実に進めるに当たり、その取組について利用者ニーズ及び経営の視点から、経費と効果、利便性の向上などの検証、改革の進捗状況の確認を行う必要がある。また、評価の透明性、客観性を確保し実効あるものとするには、外部からの監査の視点を盛り込んだ内部評価の仕組みが必要となる。

そこで、第23期協議会では、「都立図書館のサービスと図書館改革の評価について」をテーマとし、都立図書館協議会として適切な評価指標と評価体制について提言することとした。

##### 2 行政評価の基本的考え方と図書館評価

行政評価は、“行政機関が主体となって、ある統一された目的や視点のもとに行政活動の評価し、その成果を行政運営の改善につなげていくこと、さらにそれを制度化して行政活動のなかにシステムとして組み込んで実施すること”と定義される（島田晴雄『行政評価』東洋経済新

聞社、40ページ、1999年）。

##### （1）行政評価のレベルと指標

行政評価は次の3つのレベルがある。

- ・ 政策評価—行政の基本的な方向性を表す政策を評価する。
- ・ 施策評価—政策を実現するための具体的方策や対策を評価する。
- ・ 事務事業評価—施策を実現するために一つの担当セクションや一人ひとりの職員によって実践される業務を評価する。

また、指標は次の4種類の指標が用いられる。

- ・ インプット（投入）指標：事業や活動に投入される人的資源や物的資源、予算等を表す指標
- ・ アウトプット（産出）指標：組織体が生み出す活動やサービス・財等を表す指標
- ・ アウトカム（成果）指標：活動やサービスが社会全体に及ぼす成果ないし貢献、顧客満足度をもってアウトカム指標とする場合も多い。
- ・ プロセス（効率）指標：組織体が事業や活動を行う際の効率を評価する指標

##### （2）図書館評価

図書館では、ISO（国際標準化機構）によって平成10年に国際規格「図書館パフォーマンス指標」ISO11620が制定された。その後、我が国でも平成14年に日本工業規格として国内規格化されるに至って、図書館関係者の中で関心が寄せられるようになった。

#### 3 都立図書館のサービスと図書館改革の評価

##### （1）都立図書館の使命

行政評価とは、組織体の使命に基づいて数値目標が設定され、その数値目標の管理と追跡によって経営がなされることである。

都立図書館は、「東京の未来を拓く力となる 知の集積・発信 東京都立図書館」を使命として掲げている。

都立図書館は、その経験豊富な職員と豊かな蔵書により時代のニーズに合ったサービスを提供することで、国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の抱える課題の解決を支援している。図書館本来の役割である資料

の収集・保存といった集積拠点としての役割を基盤に、様々な取組を通じて、情報と知の発信拠点ともなっている。このような都立図書館の活動こそが「東京の未来を拓く力」となる。

また、使命に対する具体的な方針として「東京都立図書館運営方針」があり、6つの基本方針と、運営、情報サービス、資料管理、協力支援の4つを柱とした18の具体的方針から成っている。

さらに、平成18年8月に「都立図書館改革の具体的方策」が策定された。これは都立図書館を取り巻く社会経済状況の変化を踏まえ、改革の必要性と方針を明らかにした上で、今後取り組む改革の具体的方策を示したものである。事業の取組期間をおおむね3年間（平成19～21年度）とし、短期的なスパンで改革の実現を図ることとしている。

このように、都立図書館はその使命を達成すべく、使命－方針－方策と、より事業を具体化し取り組んでいる。

## （2）都立図書館の評価指標

### ア 評価対象事業の選定

「都立図書館改革の具体的方策」から、都立図書館が優先する事業として8つの重点事業（11事業項目）を設定し、評価の対象とした。8つの重点事業の妥当性は、都立図書館が使命及び運営方針に基づき判断したものである。

#### 【評価対象事業】

- タイムリーな企画展等の実施
- インターネットの活用①  
インターネットによる情報の発信
- インターネットの活用② オンラインデータベースの活用・インターネットパソコンの利用
- 蔵書の充実
- ワンストップサービスの導入①  
レファレンスサービスの充実
- ワンストップサービスの導入②  
利用しやすい蔵書配置
- 子供の読書活動の推進と学校教育活動への支援
- 重点的情報サービスの推進①  
都市・東京に関するサービス
- 重点的情報サービスの推進②  
都民及び企業等の活動の支援

### ○資料保存と収蔵対策

### ○協力支援サービス

#### イ 評価対象事業に基づく指標の設定

サービスの現状を客観的にかつ継続的に捉えるためには、恣意的な判断に左右されないよう、数値による評価が不可欠である。8つの重点事業をできるだけ数値化して評価するように努めなくてはならない。

また、都税によって賄われる事業として都民への説明責任の一端を担うものでなくてはならず、図書館の事業指標としても有効なものであることが望ましい。

そのため、各事業を全体として俯瞰的に見るマクロの視点と、細部を丁寧に見るミクロの視点について、インプット（投入）、アウトプット（産出）、アウトカム（成果）の3種の指標を設定することで、多角的、包括的に事業を評価していく。なお、Ⅱ2（1）で示したプロセス指標はインプットとアウトプットの比で「効率」を評価する指標である。そこで、ここではさしあたり上記の3種の指標を設定することとした。

※具体的な事業別指標については、31ページの「指標一覧表」を参照のこと。

#### ウ 基礎指標の設定

都立図書館評価は、「都立図書館改革の具体的方策」の個別事業だけでなく、都立図書館の全体についての評価も求められており、これらを指標化しておく必要がある。

そこで、「都立図書館の基礎指標」として、図書館活動にかかる基礎的な事柄を把握するための14の指標を設定した。これらは、他の図書館と比較が可能であることや数値把握に過度のコストがかからないことなどを踏まえて設定した。このため、業務統計が中心となっている。

## 4 評価方法・評価体制

### （1）評価シートの作成

都立図書館の評価は、事業ごとに「評価シート」を作成する方式で行う。評価シートの構成は、①事業概要、②（当該年度の）取組、③指標、④事業評価、⑤次年度の展開となっている。

この5つの構成のうち、①「事業概要」の欄では、当該事業の評価を実施するに当たり、

対象、意図、目的及び概要を明確にしていく。

②「取組」の欄では、当該事業の意図に沿って、どの時点でどのような取組を実施したのかを明確に記録する。

③「指標」欄では、3年分のデータを示すとともに次年度の目指す方向性を矢印で示す。

④「事業評価」欄では、成果、効率性、有効性、必要性の4つの観点を設定した。「効率性」とは、成果とコスト等との関係を明らかにするものである。「有効性」とは、得ようとする成果と実際の成果との関係を明らかにする観点である。「必要性」とは、事業がニーズ又は図書館の使命・方針に照らして妥当性を有しているか、その事業を実施する必要があるかなどの観点である。最後に4つの観点から見た総合評価を行うこととした。

⑤「次年度の展開」欄では、まず都立図書館としての方向性を示し、課題及び改善点を明確にする。その上で、改善の具体的な取組を示すこととした。

## (2) 評価のマネジメントサイクル

評価対象事業及びその評価指標を設定したが、今後、それらを用いて、どのような体制で評価を進め、事業の達成度を判断し、次の事業執行計画に反映させていくかが課題となる。

都立図書館においては、具体的に次のようなサイクルで評価を進めていく。まず、前年度の第4四半期に事業執行計画を作成する(P l a n)。次に、新年度から事業を実施する(D o)とともに指標のデータを取得していく。そして、1月には第3四半期までのデータを中間集計としてまとめ、各事業の担当部署が評価シートを作成する。作成した評価シートに基づき、年度末までに「都立図書館自己評価委員会」を開催し、各事業の成果と効率を測定・評価(C h e c k)する。その評価結果と第4四半期のデータを踏まえて次の年度の事業執行計画を作成し、事業改善(A c t i o n)を図ることとする。

さらに、都立図書館協議会において自己評価結果について報告し、意見を聴取する。

## 5 都立図書館評価の残された課題

協議会では、「事業別指標」、「基礎指標」を設定し、都立図書館の客観的な評価の枠組みを作

成した。その上で残された課題を指摘しておく。

第一の課題として、評価に使える図書館統計や評価データが必ずしも十分でないことが挙げられる。評価に使う指標は、客観性があり、大きな労力をかけることなく信頼性の高いデータ収集が可能であることが望ましい。ところが、既存の統計やデータを検討した結果、使える数値は意外に多くないことが判明した。

第二の課題は、調査対象の限界である。評価を多面的に行おうとすれば、図書館を使う可能性がある潜在的な利用者に対して利用しない理由を尋ねる必要がある。しかし、そのような利用者をどのように把握し、接近すればよいのか。今後継続して検討すべき問題である。

さらに、「評価のための評価」となってはならない、という課題がある。すなわち、各指標の数値がどうなったかだけでなく、指標によって明らかにする事業そのものの必要性について絶えず見直していくことを忘れてはならない。

また、現時点で評価対象である重点事業は8事業であるが、時代の変化に応じて見直しが必要である。評価対象は、都立図書館のあるべき姿、求められる役割を自身が客観的に認識し、自らの使命を再確認することから導き出されなければならない。こうした図書館による目標管理とP D C Aのマネジメントサイクルそのものの忠実な実行が何よりも求められる。これらの実現を目指し、図書館サービスの一層の充実を図ることが、当面の最大の課題である。

## Ⅲ 都立図書館協議会提言を受けて

本提言を受け、都立図書館では初めての評価実施に向けて準備を進めているところである。

今後、サービス改善に真に役立つ評価を実施し、サービスの向上並びに改革の実現、引いては都立図書館の使命の実現を図るよう努めていきたい。

なお、都立図書館協議会の提言全文、委員名簿及び議事録は、都立図書館ホームページに掲載されているので御覧いただきたい。

<http://www.library.metro.tokyo.jp/18/index.html>



第23期提言手交

## 表 覽 一 標 指

[illegible]

## 第4 連携・協力

### 1 区市町村立図書館との連携

#### 企画経営課

#### 1 東京都公立図書館長連絡会

「都立図書館改革の具体的方策」の年次別取組 2 年目にあたり、区市町村立図書館との連携・協力について、館長連絡会を通じて、理解と協力を得られるよう努めた。

##### (1) 会議の開催

###### ア 全体会

第1回：6月27日(金)

議題：①平成19年度事業報告 ②国及び図書館関係団体の状況報告 ③都立図書館の事業概要・協力支援事業について ④「都立図書館改革の具体的方策（以下「具体的方策」という）の進捗状況について ⑤改修工事期間中のサービスと重点的情報サービス内容

第2回：11月14日(金)

議題：①東京都立図書館3館の当面のスケジュールについて ②相互貸借の促進と協力貸出の見直しについて（中間報告）

中央図書館のリニューアルオープン、多摩図書館の東京マガジンバンク創設、日比谷図書館の地元区への移管について説明するとともに、協力貸出方針の見直し案について検討経過等を報告した。

###### イ 幹事会

第1回：7月11日(金)

「具体的方策」の「相互貸借の促進と協力貸出の見直し」について「見直し案」を区市町村に提示し、意見を求めた。

第2回：10月16日(木)

第1回の「見直し案」に対する区市町村立図書館からの質問・要望を受けるとともに、今後の検討スケジュールを示した。

第3回：1月28日(水)

区市町村からの要望・意見を踏まえて検討した「相互貸借の促進と協力貸出の見直し」について「第一次まとめ」を提示した。

##### (2) メールマガジンの発行

「e-協力マガジン」を、館長連絡会構成員

あてに毎月1～2回発行した。

### 2 協力事務担当者会

(1) 第1回 6月4日(水) 多摩図書館

6月5日(木) 日比谷図書館

同一内容で2日間実施し、都立図書館の協力支援事業及び協力貸出事務手続等について「都立図書館協力ハンドブック 平成20年度版」に基づき説明を行った。

特に、5月からの改修工事に伴う、協力貸出の変更について説明し協力を依頼した。

(2) 第2回 11月5日(木)

今回初めて二部制で開催し、前半を区部担当者のみの情報交換会とした。

区市町村間の相互貸借ルール調整やISBN総合目録の存続について協議を行った。

### 3 講師派遣研修

23区第2ブロック新任研修へ司書2名を派遣し「レファレンス入門～カウンター編」と題してレファレンスインタビューや接遇を中心に初心者向けの講義を行った。

また、2月26日中央区の健康・医療情報のレファレンス研修会に司書2名を派遣した。

### 4 協力貸出

中央図書館の改修工事にあたる、5月から11月の間、開架図書を中心に外部倉庫に保管し、新刊図書と利用の多い分野（人文科学、社会科学）について協力貸出体制を確保した結果、例年の約75%が提供できた。

### 5 東京都公立図書館横断検索

平成20年5月をもって、インターネットに蔵書検索システムを公開している52自治体すべてが東京都公立図書館横断検索で検索可能となった。

## 2 東京都図書館研究交流会の開催

### 企画経営課

「東京都図書館研究交流会」は、公立図書館の新しい動向や特色あるサービスの事例紹介等を通じ、都内公立図書館職員等が今後の図書館のあり方を考える機会を提供することを目的として開催している。平成15年度から「東京都公立図書館事務連絡会」「東京都図書館研究集会」と名称を変更しながら継続し、今年度で6年目を迎えた。

#### 【第1回】新しい区市立図書館の見学会

昨年に引き続き都内公立図書館の見学会を行った。過去1年間に開設された新館を見学し、また概要説明を伺い、各館の最新の設備やサービスなどを実際に見ることができ、大変好評だった。全3コースで、延べ113人の参加があった。

いずれの館でも地域の特性や規模に応じた新しいコンセプトやサービスが斬新で、アンケート回答者の97%が業務の参考になったとの回答だった。

#### 開催日・会場

- ◆平成20年9月25日(木) 江戸川コース  
江戸川区立篠崎図書館：文化プラザ併設、コンセプトは“大人のための図書館”
- ◆10月1日(水) 北区コース  
北区立中央図書館：歴史ある建物とユニバーサルデザインが特徴の通称“赤レンガ図書館”
- ◆同9日(木) 青梅コース  
青梅市中央図書館：JR駅直結の大規模中心館

#### 【第2回】講演会「図書館に行列ができる！講座とチラシの作り方」

- ◆開催日 平成21年1月22日(木)
- ◆会場 都立中央図書館 4階多目的ホール
- ◆参加者 都内公立図書館職員 81人
- ◆講師 牟田静香氏(NPO法人男女共同参画おた理事長)

今回はリニューアルオープン記念として、図書館の企画力アップをテーマに、今大変人気の牟田静香氏を招き講演会を行った。氏は、企画した講座のほとんどが定員オーバー、平均応募倍率3.3倍の実績を誇り、年間150件以上の講演で全国を

飛び回っている“カリスマ”的な存在である。本講演会も定員を超える参加申込みがあり、まさに「行列のできた」講演会となった。企画力と広報力向上のための具体的なノウハウを中心に、講座のタイトルのつけ方やテーマ、チラシの作り方、広報戦略など、豊富な例を盛り込みながらお話いただいた。短い時間ではあったが、グループワークもあり、とてもパワフルな講演で熱気あふれる会となった。



#### 〈アンケート結果〉

回答者の約95%(アンケート回収率100%)が業務の参考になったとの回答だった。また満足度を聞いたところ、有効回答者の約半数が満足度90%以上と回答、中には120%と答えた方もおり、すぐに実践する、業務に活用したいといった大変熱意ある回答が多かった。また民間(NPO)の立場からの視点として、日々の心がけやその姿勢をうかがった点からも学ぶことが多かった。

#### 【第3回】都立中央図書館見学会

- ◆開催日 平成21年2月5日(木)
- ◆会場 都立中央図書館
- ◆参加者 都内公立図書館職員他 81人

リニューアルオープン記念として都立中央図書館の見学会を開催した。東京都図書館協会と共催で実施し、館種を超えた交流会となった。

今年度は見学会2回と講演会と忙しい1年であった。今後も区市町村立図書館の経営支援に資する実践的なテーマを選定し、交流会の一層の内容の充実に努めたい。

---

### 3 区市町村立図書館レファレンス研修 情報サービス課

---

#### 1 目的

中央図書館では、都内区市町村立図書館に対する連携協力の一環として、レファレンス知識や技能の向上を図ることを目的に毎年レファレンス研修を実施している。

#### 2 概要

この研修は区市町村立図書館職員を対象に、テーマ別にその分野でのレファレンスサービスに必要な基本的資料やデータベースの効果的な利用法を学ぶ「テーマ別研修」と、各自治体で初任者研修を実施するためのノウハウを学ぶ「講師養成講座」を実施している。

「テーマ別研修」は、平成10年度から中級講座として年2回実施していた研修を平成18年度から現在の形で年2～4回開催している。テーマは近年の社会状況の変化に伴う利用者のニーズに合わせた内容を選定している。

「講師養成講座」は各館での初任者向けの研修を立案、実施するためのスキルを習得できるよう、演習問題作成のポイントや基本参考図書を紹介などの内容で行っている。これまでに48自治体（約206名）の方が受講した。

いずれの講座も都立図書館でレファレンスサービスを行っている司書職員が講義と演習を行う。区市町村立図書館の利用者傾向、職員レベルを想定し、実務に即したテキスト、演習問題を作成実施することで実践に役立つ研修としている。

毎回受講希望者は多いが、一自治体一名での受講としている。都内公立図書館以外では東京都図書館等連絡会加盟機関からも参加がある。今年度は首都大学東京図書情報センター等の5名が受講した。

#### 3 今年度の研修

平成20年度に実施した研修は次のとおりである。

「テーマ別研修 法律情報」 H20. 7. 3

「テーマ別研修 健康・医療情報」 H20. 9. 4

「講師養成講座」 H20. 10. 2

「テーマ別研修 ビジネス情報」 H20. 11. 6

今年度の研修は、中央図書館の大規模改修工事の期間中に実施したため、制約が多い状況での研修となった。工事エリアの資料は保管していた外部倉庫から事前に準備して取り寄せた。一部の資料は利用できない状態にあり、受講者からも手に取って確認したかった旨の御意見をいただいた。会場は4階に設けられた臨時閲覧室を使用した。パソコンの台数も少なく交代して使用していただいた。このような状況下での研修であったが、アンケート結果では、「目的は果たされた」、「参考になる」という回答が圧倒的に多かったことは、毎年の研修が区市町村立図書館職員から評価されていることを示している。

#### 4 研修の成果をあげるために

当日の限られた日程での研修だけでは習得に限度がある。研修後も引き続き受講者のスキルアップや自治体内での研修実施が促進されるよう以下の方法を講じている。

##### (1) ホームページの活用

研修で使用したテキスト、演習問題、解説等を都立図書館ホームページの「区市町村立図書館専用ページ」に公開し、活用できるようにしている。

##### (2) 受講後のフォロー

「講師養成講座」では、当日の演習時間に全受講者が作成した演習問題を一覧表にまとめ、研修では説明しきれなかったポイントを書き加えたものを受講後全員に配布している。

##### (3) 研修成果の報告

研修で学んだことを各自治体や図書館で実際に役立てた例やどのように活用したかを後日報告してもらっている。受講後の実践を促進する目的であるが、次年度以降の研修内容にも反映させていくためでもある。

今後も都民によりよいレファレンスサービスを提供できるよう、区市町村立図書館職員のスキル向上に実効性のある研修を提供していきたい。

## 4 学校支援

### (1) 首都大学東京

#### 「現場体験型インターンシップ」

##### 企画経営課

## 1 概要

首都大学東京「現場体験型インターンシップ」は、主に1・2年生を対象とする「都市教養プログラム（選択科目、2単位）」の授業として位置づいている。大学生生活の早い時期に、大都市東京の現場体験を通じて、学生が自ら問題意識をもち、課題に主体的に取り組む能力、対人関係に必要な基礎的な能力を養成することを目的に実施されている。

今年度については、8月18日(月)から25日(月)(土・日曜日は除く。)までの6日間、4名の1年生を受け入れた。実習概要としては、開館準備として雑誌配架・新聞綴じ・書架整頓等実習、資料出納、カウンター接遇、情報の探し方及び案内実習、資料保全業務、製本実習、データ作成、図書装備点検、ホームページ運用管理など、企画経営課、資料管理課、情報サービス課、日比谷図書館、多摩図書館の各セクションで都立図書館業務の実際を体験した。

## 2 インターンシップ実習を通しての学生たちの感想

「実習を通して、社会に出ることの大変さ、社会の一員になることの大切さを実感した。」

「図書館の活用、図書の検索の仕方、調べものの仕方等を学ぶことができ、今後も都立図書館を活用していきたい。」

「レファレンス業務の大切さを実感するとともに、それを支える『司書』という仕事の重要さを学びました。」

このように、都立図書館業務の多様性を体感することを通じ、そこで出会った「司書」等の職員と向き合い、かかわる中で、「働くこと」「仕事をする」ということを少しでもイメージできたのではないだろうか。



## (2) 教職員研修への協力

### 企画経営課、日比谷図書館、多摩図書館

## 1 概要

学校支援サービスの一環として、学校における図書館を活かした学習効果を進めるために、教職員研修センター主催の研修に協力した。また、中央図書館では学校司書対象の専門実務研修、日比谷図書館では都立高校新規採用教員の初任者研修を受け入れた。

## 2 研修の内容

### (1) 学校図書館司書教諭研修

研修目的：学校図書館を活用した指導のあり方等を通じて、学校内における読書活動の指導の改善を図る。

《読書活動ⅢA・B共通》

実施日：平成20年9月22日(月)

実施場所：教職員研修センター

対象：公立小・中学校、都立学校、特別支援学校の教員 101名

講師：中央図書館 司書1名

内容：公立図書館との連携の在り方及び読書活動の指導の充実等

《読書活動ⅢA・B》

実施日：ⅢA 平成20年10月28日(火)

ⅢB 平成20年11月13日(木)

実施場所：教職員研修センター立川分室

対象：公立小・中学校、都立学校、特別支援学校の教員

ⅢA 57名、ⅢB 44名

講師：多摩図書館 司書3名

中央図書館 司書1名

内容：読書活動に活用できる本の選び方と新刊書からの選書方法を講義及び演習で学ぶ

### (2) 専門実務研修「司書研修」

研修目的：司書としての専門知識を習得し、職務能力の向上を図る。

実施日：平成21年1月16日(金)

実施場所：教職員研修センター

対象：都立学校に勤務する学校司書 38名

講師：中央図書館 司書1名

### (3) 初任者課題別研修

研修目的：教員以外の多くの人との交流を図り、

図書館業務を体験することにより、職務能力の向上を図り今後の教育に資する。

実施日：平成20年12月18日～19日

実施場所：都立日比谷図書館

対象：都立墨田工業高等学校教諭 1名

内容：日比谷立図書館のサービス全般

### 3 研修評価

研修生からは好評で、すぐに学校運営に活かしたいという声が多かった。

## (3) 特別支援学校生徒の現場実習協力 企画経営課

### 1 概要

特別支援学校の生徒の現場実習は、卒業後の就労を希望する生徒が、職場での実習体験を通し、就労意識を高めるため、平成18年度から教育庁（本庁内）を中心に実施されてきた。今年度、東京都教育委員会では、特別支援学校の生徒が様々な実習体験ができるよう、実習先を拡大することとし、都立図書館にも受入れ要請の依頼があり、今年度初めて受け入れた。

#### 【平成20年度受入れ校一覧】

|    |               |    |           |    |
|----|---------------|----|-----------|----|
| 中央 | 都立羽村特別支援学校高等部 | 2年 | 11/25, 26 | 2名 |
|    |               | 2年 | 12/1, 2   | 2名 |

実習場所は、羽村特別支援学校から中央図書館が遠いため、教職員研修センター立川分室とした。

### 2 実習内容

(1) 11/25, 26

|         |    |                                            |
|---------|----|--------------------------------------------|
| 1<br>日目 | 午前 | 文書のホチキス留め<br>文書の発送準備                       |
|         | 午後 | 多摩図書館の見学<br>利用者用にプレゼントできる、<br>葉書のマーブルリング装飾 |
| 2<br>日目 | 午前 | 文書のホチキス留め<br>都庁交換使用の封筒のあて名貼り<br>封筒への組織印押印  |
|         | 午後 | 利用者用にプレゼントできる、<br>葉書のマーブルリング装飾             |

(2) 12/1, 2

|         |    |                                                                           |
|---------|----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>日目 | 午前 | 多摩図書館の見学<br>多摩図書館の書庫の清掃<br>案内の二つ折り作業                                      |
|         | 午後 | 利用者用にプレゼントできる、<br>葉書のマーブルリング装飾<br>リサイクル用紙に「リサイクル」の押印作業                    |
| 2<br>日目 | 午前 | カイルラッパー（傷んだ図書の<br>保存箱）作り<br>案内の二つ折り作業                                     |
|         | 午後 | リサイクル用紙に「リサイクル」の押印作業<br>都庁交換使用の封筒のあて名貼り<br>利用者用にプレゼントできる、<br>葉書のマーブルリング装飾 |



葉書にマーブルリング装飾をする様子

### 3 今後の課題

今回、都立図書館としては初めて中央図書館が特別支援学校の実習の受入れを行った。実習場所が中央図書館内ではなく、教職員研修センター立川分室であること等により、準備不足の部分が多々あった。しかしながら、実習を行った生徒は、意欲的に作業に取り組んでいた。

今後、実習プログラムの充実を図っていくと同時に、図書館の機能についても理解してもらうきっかけになることを願っている。



特別支援学校の生徒が作成したマーブルリング葉書  
(中央図書館見学者に配布)

#### (4) 中学生の職場体験・インタビュー調査への協力

##### 企画経営課、日比谷図書館、多摩図書館

#### 1 職場体験

都立図書館は、東京都の中学生職場体験推進事業の趣旨に寄与し、図書館と学校との連携推進を目的とするもので、中学生の職場体験を受け入れた。

##### 【平成20年度受入校一覧】

|     |               |    |          |    |
|-----|---------------|----|----------|----|
| 中央  | 中野区立第五中学校     | 3年 | 9/2-3    | 3名 |
|     | 文京区立本郷台中学校    | 2年 | 9/18-19  | 3名 |
|     | 港区三田中学校       | 2年 | 11/12-13 | 2名 |
| 日比谷 | 新宿区立四谷中学校     | 2年 | 7/23-24  | 4名 |
|     | 中野区立第五中学校     | 3年 | 9/2-3    | 2名 |
|     | 都立小石川中等教育学校   | 3年 | 12/16-17 | 4名 |
| 多摩  | 立川市立立川第三中学校   | 2年 | 7/2-4    | 4名 |
|     | 府中市立府中第二中学校   | 2年 | 9/8-12   | 3名 |
|     | 立川市立立川第五中学校   | 2年 | 9/24-26  | 6名 |
|     | 東村山市立東村山第一中学校 | 2年 | 10/7-8   | 3名 |
|     | 府中市立府中第七中学校   | 2年 | 11/26-28 | 2名 |

##### 【中央図書館の実施状況】

主体的に考えながら実習してもらいたいと考え、今年度から蔵書数や蔵書の種類等をクイズ形式のオリエンテーションを行い、都立図書館の基本的な事項について学んでもらった。

その後の実習プログラムとして、寄贈資料の仕分け、開館時のお客様へのあいさつ、新聞綴じ、傷んだ資料の補修、書庫に保管してある資料の出納・受け渡し、視覚障害者の方のための朗読（模擬）業務等を行った。

どの生徒たちも、最終日には、図書館がこんなに多くの業務を行い、各種のサービスを行っていることに驚き、「働く」ことのイメージを広げたようだった。

##### 【日比谷図書館の実施状況】

メインイベントは、朝10時の開館と同時に一斉に入館してくる数十名の利用者への声かけである。中学生が「研修生」の名札をつけて、「おはようございます」とあいさつすると、来館者の顔がほころぶ場面が見られた。中学生も、最初は緊張していたようだが、段々引き締まった表情になってきた。

実習プログラムとしては、貸出・返却カウンターでの実習や、返却された図書の配架、テーマ展示・トピック展示の企画にも取り組んでもらった。

中学生は、まず、レファレンス演習問題で実際の資料の探し方のコツをつかみ、次に、自分の好きなテーマに関する図書を選び、利用促進のための企画書を作成、職員の見守る中、発表に臨んだ。

この他に、視聴覚ライブラリーとしての日比谷図書館の特徴を活かし、16ミリフィルムや映写機の実物の見学も盛り込んだ。LPレコードも知らない若い世代の目には非常に新鮮に映ったようだ。

##### 【多摩図書館の実施状況】

本の整架・配架作業から、レファレンスまで、多様な業務が経験できるプログラムを用意した。

3日間以上職場体験を行う学校には、生の現場を体験できるよう、毎週水曜日に実施している「おはなし会」の業務も組み込んだ。会場等準備を経て、実際に子供たちがわらべうたや絵本の読み聞かせを楽しむ様子を見学することで、普段接することの少ない幼児への興味や共感が育つようである。その後、絵本の読み聞かせについて職員から話を聞き、各自好きな本を選んで、模擬おはなし会を開いた。子供のときに好きだった絵本と再会し、懐かしがり、熱心に練習する姿が見られた。実際に絵本を読み聞かせるという体験は、達成感と共に自分の読書体験を省みる機会にもなるようだ。

生徒たちはどの業務にも真剣に取り組んでいた。寄せられた感想を見ると、書庫での集荷、配架作業等、利用するだけでは分からない図書館の業務が印象に残るようである。

今年度は5日間の職場体験を行った学校が1校あった。今後も日程の長期化が進むと思われる。各係で連携し、生徒の将来に役立つ職場体験の実施に引き続き努めていきたい。

#### 2 職業インタビュー

中央図書館には、職業観を養うためのインタビュー調査の依頼があり、受け入れた。

##### 【平成20年度受入校一覧】

|    |         |    |      |    |
|----|---------|----|------|----|
| 中央 | 私立海城中学校 | 3年 | 10/9 | 1名 |
|    |         |    | 1/27 | 1名 |

##### 【実施状況】

図書館の業務全般に話をし、仕事のやり甲斐や大変さ等について、インタビュー形式で答えた。将来の職業観を養うとともに、インタビュー調査を通して社会的なマナーについても学んでもらいたいと考えている。

## (5) 高校生の奉仕体験・インタビュー調査等への協力

企画経営課、多摩図書館

### 1 高校生の奉仕体験・インターンシップ

都立図書館では昨年に引き続き、「総合的な学習の時間」の中で実施している教科「奉仕」の校外活動及びインターンシップとして、以下の都立学校を受け入れた。

#### 【平成 20 年度受入校一覧】

|    |            |     |         |      |
|----|------------|-----|---------|------|
| 中央 | 都立西高等学校    | 1 年 | 8/6     | 3 名  |
| 多摩 | 都立青梅総合高等学校 | 2 年 | 8/13-14 | 3 名  |
|    | 都立西高等学校    | 1 年 | 8/20-21 | 10 名 |

#### 【多摩図書館の実施状況(スケジュールの一例)】

- ・多摩図書館についてのガイダンス・館内案内
- ・新聞綴じ、協力貸出資料の集荷等
- ・視覚障害者サービスの体験（音訳資料・点字資料）
- ・レファレンス実習（インターネットの検索含む）
- ・図書の管理・保全（カイルラッパーの作成、協力貸出資料の返却）
- ・おはなし会の準備、片付け
- ・絵本の読み聞かせ練習、及び職員の前で発表
- ・青少年資料の装備（ラベルの貼り替え等）

#### 【生徒の反応等】

生徒たちは、奉仕体験等を通し、図書館業務の一端に触れることができたのではないかと思います。

生徒は皆、真面目に取り組む、協力していた。

受け入れる側も、生徒の反応や関心を青少年資料の収集やサービスに取り入れる機会になった。

今後も、生徒が具体的に将来を考える上で役立つ奉仕体験の実施に努めていきたい。

### 2 職業インタビュー

中央図書館には、職業観を養うためのインタビュー調査の依頼があり、受け入れた。

#### 【平成 20 年度受入校一覧】

|    |             |     |       |     |
|----|-------------|-----|-------|-----|
| 中央 | 都立つばさ総合高等学校 | 2 年 | 11/28 | 4 名 |
|----|-------------|-----|-------|-----|

#### 【実施状況】

図書館の業務全般の話をし、仕事のやり甲斐等について、インタビュー形式で答えた。将来の職業観を養うとともに、インタビュー調査を通して社会的なマナーも学んでもらいたいと考えている。

## (6) 都立特別支援学校との連携

多摩図書館

都立多摩図書館では平成 17 年度から都立特別支援学校との連携事業を展開している。児童生徒の読書活動や学習活動を支援する一方、そのニーズやサービス方法についても探る。

### 1 平成 20 年度実施状況

#### ○連携事業実施校（9 校）

久我山盲学校、大塚ろう学校、立川ろう学校、武蔵台特別支援学校、中野特別支援学校、足立特別支援学校、八王子東特別支援学校、田園調布特別支援学校、永福学園

#### ○実施内容

- ・出張おはなし会
- ・図書室整備支援
- ・資料による支援
  - 図書の貸出、寄贈（選定、分類付与含む）
- ・読書に関する相談・アドバイス
- ・図書館紹介ビデオの作成支援

おはなし会では、子供たちの興味や発達上の課題に対応したプログラムをたてた。今年度から特別支援学校でも実施したが、動物など親しみのある題材、リズムカルな言葉、単純なストーリーの本に興味を抱くことがわかってきた。子供の様子を見ることで、先生方も読書の重要性に気づき、読み聞かせなどに関心を深めていた。4 年間連携した盲学校からは、図書の貸出希望が増え、子供の読書への関心が高まった様子が伺えた。

今年度は、平成 18 年度から連携を開始した大塚ろう学校の取組状況を都立図書館主催の「子供読書フォーラム」で報告していただいた。報告を聞いた方のアンケートには、取組内容や姿勢のすばらしさを御記入いただいたものが数多くあった。

詳しい内容は、3 月発行の報告書に掲載するので御覧いただきたい。

### 2 推進の課題

担当の先生の異動により、取組がとだえてしまうケースがある。学校全体の取組となるような方法を図書館としても考えていきたい。

## 5 東京資料サーチと東京都図書館等連絡会

### 企画経営課

都立図書館では、「都立図書館改革の具体的な方策」（平成18年8月）に基づき、「都の行政施策との連携」の一環として、平成19年3月15日に「東京資料サーチ（東京関係資料の横断検索）」を稼動させた。このシステムは、都立図書館ホームページで公開し、一般の販売ルートに乗りにくい行政刊行物などの「東京に関する資料」を多数検索できることが特徴である。また、都立図書館、大学図書館、専門図書館等が検索対象となっており、館種を超えて横断的に検索できる。

今年度は稼動後3年目を迎え、新たに検索対象館を増加する、広報用パンフレットを作成するなどの事業を実施した。その概要は、次のとおりである。

### 1 新「東京資料サーチ」

(東京資料サーチ 新画面)

- (1) 稼働日 平成21年2月4日
- (2) 新規館 東京市政調査会市政専門図書館
- (3) 検索対象 6機関、約32万冊の東京関係資料
- (4) 「東京資料サーチ」のリンク用ボタンを新規作成

都立図書館トップページに掲載すると共に、「東京資料サーチ」検索ページにもタイトルデザインとして採用。「東京資料サーチ」の母体である「東京都図書館等連絡会」の各加盟機関のホームページ上でも掲載し、広報に御協力いただけるよう配布した。

- (5) 画面の一元化

これまで「東京資料サーチ」の紹介画面から検索画面へ入るという手順になっていたが、

紹介と検索の画面を一元化し、ダイレクトに検索できるよう修正している。画面左手が検索項目の入力、画面右手が「東京資料サーチ」の紹介となっており、「東京都図書館等連絡会の紹介」ページへもリンクしている。

### 2 広報用パンフレット

A4判横、三つ折、両面カラーで1万5千部作成。新「東京資料サーチ」の公開に合わせ、「東京資料サーチ」検索対象機関、「東京都図書館等連絡会」加盟機関、都内公立図書館等へ配布した。このパンフレットでは、東京都図書館等連絡会加盟機関も紹介し、資料の取寄せ（相互貸借）等のサービスが各機関でできることの案内も掲載している。



(パンフレット 表面)

### 3 東京都図書館等連絡会の動き

昨年度から進めていた、新規加盟館の承認、利用案内の改訂、連携・協力のための要綱の作成の3作業が完了した。これにより、加盟機関が9機関となり、相互協力体制が整備された。

平成20年10月21日には、特別区自治情報・交流センターがある東京区政会館において、実務担当者会を開催した。各機関のサービス状況一覧についての要望があり、「東京都図書館等連絡会の紹介」を作成し、都立図書館のホームページ上で公開している。

このほか、平成21年2月4日、専門図書館協議会関東地区協議会地方自治分科会において「東京資料サーチ」の発表を行った。

### 4 今後の取組に向けて

今年度は広報に関して、東京都図書館等連絡会加盟機関で、共同の取組を行った。全機関での取組は大きな効果が期待できる。今後も様々な協力・連携に積極的に取り組んでいきたい。

## 第5 行事・展示

### 1 都立図書館企画展

#### 「緑あふれる東京の再生をめざして」

#### 情報サービス課

#### 1 はじめに

東京都は「10年後の東京」で、今後10年間のうちに『水と緑の回廊で包まれた美しいまち東京を復活させる』ことを第一の柱として、その実現を目指し「緑の東京10年プロジェクト」を推進している。



多摩産材コーナー

都立図書館は、緑のムーブメントの一環として都立図書館企画展「緑あふれる東京の再生をめざして」を平成20年10月31日（金）から11月9日（日）まで10日間にわたり、東京芸術劇場において開催した。国土緑化推進機構、夢の島熱帯植物館、（財）東京都公園協会、東京都各局等多くの機関から協力を得、「緑」を体感できる都立図書館企画展をテーマに展示会を開催した。また期間中、11月3日（月・祝日）に、東京芸術劇場大会議室でNPO法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター代表海野義明氏を講師に講演会「自然環境—『緑』・『海』を豊かにするために“今できること”—」とNPO法人園芸アグリセンター（都立園芸高校を母体にするNPO）及び都立園芸高校の生徒による事例発表を開催した。

なお東京文化財ウィーク2008「大奥—江戸城で働く女性たち」（中央図書館で開催した同名展示会の複製資料による展示）も同会場内で同時に開催した。

#### 2 展示内容

全体を3部構成とし、展示資料のなかから必要に応じてパネルを作成した。産業労働局の「多

摩産材」、東京都公園協会にはブースを提供し、展示出品を依頼した。会場のエントランスに図書館紹介コーナーを設置し、図書館の企画展示であることを示した。

#### 第1章 「緑」の象徴—森の力

展示会場入口近くの床一面に巨大な年輪の図を設置し、日本でいちばん太い（幹周13.79メートル）御蔵島のスダジイの太さを実感できるようにした。正面森林写真のパネルを背景に、本物のスダジイの太切り株を展示、野鳥の鳴き声の効果音を流し、緑によってもたらされる様々な感覚を体感できるようにした。資料は楽しい森、癒しの森、懐かしい森、神の住む森など、森が持つ力を15枚のパネルと図書資料で紹介した。多摩図書館児童青少年資料係から、児童書とともに松ボックリやどんぐりで作った森の動物を出品し、来場者の目を引く効果をあげた。

大きなスダジイの切り株は海を渡って大島から送られた。また、展示資料『みくらの森は生きている』の写真にあるものと同種の着生植物、巨大なオオタニワタリを夢の島熱帯植物館からお借りした。パネル作成にあたり国土緑化推進機構、雲取山荘、明治神宮、宮内庁、林野庁、日立環境財団、谷川俊太郎氏（詩人）から御協力をいただいた。



スダジイの切り株と巨大な年輪イラスト

#### 第2章 その1 江戸～東京における『緑の原風景』（江戸）

幕末に来日した英国人プラント・ハンター、フォーチュンをして染井の植木の里を「世界で類がない」と驚嘆させた江戸は、緑豊かな園芸都市であり、大名から庶民までそれぞれに緑を楽しんでいた。当時の風俗を『絵本江戸土産「染井之植木屋」』、特別文庫室所蔵の浮世絵『新版浮絵飛鳥山之図』等のパネルで紹介した。また大名庭園小石

川後楽園が、砲兵工廠<sup>こうしょう</sup>を経て現代の都立公園となるまでを資料でたどり、江戸～東京と緑の関係を問いかける展示となるように配慮した。

## 第2章その2 江戸～東京における『緑の原風景』(近代)

明治から平成期にかけての、東京の様々な都市計画・施策と公園緑地等をパネル化した地図・写真等や図書・行政資料等を用い、ビジュアルに分かり易く展示した。

明治期では、日本初の都市計画である『東京市区改正設計』等、大正・昭和前期では、関東大震災後の復興事業のシンボル『復興公園写真』、戦前の大規模なマスタープラン『東京緑地計画』等、昭和中期から平成期では、高度経済成長期以降、東京の環境にとり重要となった“緑”に関する施策『東京緑の倍增計画』等を取りあげた。

特に、日比谷公園コーナーでは、明治から現在に続く、日本初めての洋風都市公園である日比谷公園の歴史を写真や図を中心にして、その変遷を紹介した。

パネル作成にあたり、東京都公園協会に御協力をいただいた。



「緑のムーブメント」を起こそう！コーナー

## 第3章 「緑のムーブメント」を起こそう！ーこれからの東京と緑

江戸から東京へと受け継がれてきた緑の文化と東京の緑の現状を再認識することで、これからの「都市と緑」を考える糸口となるよう資料を展示した。

東京都が『緑の東京10年プロジェクト』によりすすめている「海の森」「マイ・ツリー（街路樹）」「校庭芝生化」「多摩産材」などの事業を紹介し、あわせて海外の取組を紹介する資料を展示した。また緑化の主体となる都民一人一人が、これから活動しようとする場合に役立つよう、自由に参加できる講座やボランティア、行政の緑化窓口

やNP0の連絡先を一覧リストに作成し、会場で配布した。

パネル作成に当たり知事本局、都市整備局、環境局、産業労働局、港湾局、建設局から御協力をいただいた。

オリンピック招致本部からは、2016年の東京開催へ向け、開催予定地を立体的に見ることができるベニユーマップをお借りし展示した。資料では、グリーン・スポーツ、2016年の環境にやさしい東京オリンピック計画関連の図書、パンフレット等を中心に展示し、オリンピック招致に向けた取組を紹介した。

全体としてパネル約100点、資料352点を展示し、ブックリストも好評であった。当館視聴覚資料のビデオ、オリンピック関連DVDの上映を行った。

## 3 来場者及びアンケート結果

来場者は10日間で1,724名、講演会参加者は67名であった。来場者の年代層としては60代が90名、70代が70名と多かった。

来場者アンケート結果は、回収率19%、大変よいとよいで93.8%、おおむね好評であった。

## 4 今後の課題

ア 今回は当館の大規模改修時期に展示準備が重なったため、展示資料等を事前に集め、配置するための準備スペースがなく、作業に困ることがあった。リニューアルオープン後展示準備室が設けられたので、展示パネル・用具等を保管・管理し、他の展示への活用を図る必要がある。

イ 図書館未利用者を対象にする、館外の大会場での展示は、従来の館内での資料展示とはおのずと異なる部分があるとおもわれる。博物館学芸員等から講義等を受ける機会を設定し、資料展示のノウハウを取得していきたい。



松ボックリやどんぐりで作った森の動物

## 2 文化財ウィーク2008参加事業 「江戸城 — 大奥で働く女性たち」展 特別文庫室

### 1 展示概要

特別文庫室では、昭和62年に国の重要文化財に指定された「江戸城造営関係資料（甲良家伝来）」646点を所蔵している。これらの資料は、特別文庫室が所管する「東京誌料文庫」に収められている。平成11年度より、当室所蔵の文化財を紹介する目的で東京文化財ウィークに参加し、今年で10回目を迎えた。今年は、中央図書館が改修工事中であったため、会期を平成20年11月3日（月）から9日（日）までの1週間とし、「大奥—江戸城で働く女性たち」をテーマに5階特別文庫閲覧室内で小展示を行った。

江戸城大奥に関する資料は残存するものが少なく、江戸城の表・中奥を担当する作事方の大棟梁であった甲良家に伝えられた「江戸城造営関係資料」の中にも大奥関連の図面は少ない。今回の小展示では、その中から、大奥の様子がわかる図面など重要文化財4点を展示し、さらに江戸城や武家屋敷の奥向で生活していた奥女中や御台所に焦点をあて、錦絵や双六等あわせて計10点を展示した。展示期間中の来場者数は214名であった。

### 2 展示内容

#### （1）大奥の構造と内装

西の丸や二の丸等を含めた江戸城全体の構成を記した「江戸御城之絵図」（東6151-2）を最初に展示し、続いて本丸大奥部分の図面である「寛永度絵図 大奥」（東6181-6）（図1）、西の丸の大奥部分の絵図「西丸大奥御本家絵図」（東6182-5）を展示した。ここでは、江戸城全体の構成とそこでの本丸、西の丸それぞれの大奥の位置と構造を紹介した。

また、大奥室内の様子を垣間見ることができる資料として、本丸大奥の御新座敷の床棚寸法等を記した「御本丸大奥御殿御床棚絵図」（東6181-2）を展示し、参考資料として、木子文庫所収の「江戸城本丸大奥ほか銅物絵図」（木012-4）の中から、御新座敷の引き戸等に用いられた装飾金具が描かれた絵図を展

示した。

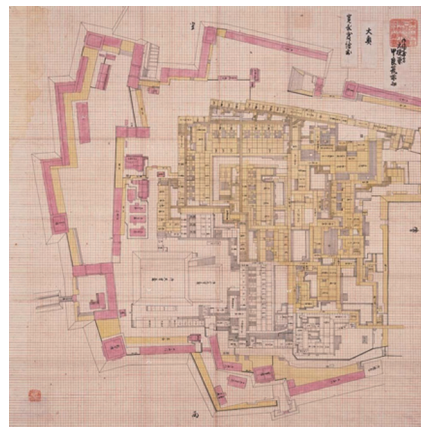


図1

#### （2）奥女中と御台所

奥勤めの女性の出世を題材にした「奥奉公出世双六」（東377-S10）や田安家の奥向に仕える女中の基本台帳にあたる「田安女中分限帳」（特4706）を展示し、奥女中の一覧表と併せて奥女中の職制や仕事内容を紹介した。また、明治期に想像を交えて江戸城大奥の様子を描いた「千代田の大奥 猿若狂言」（東618-C1-7）（図2）、同じく明治期に15代にわたる将軍の御台所を描いた「葵艸松の裏苑」（東247-C3）から、「家定公御臺所」と「家茂公御配偶和宮」を展示した。



図2

### 3 東京芸術劇場での複製資料展示

平成20年10月31日（金）から11月9日（日）まで、東京芸術劇場展示ギャラリーにおいて開催された東京都立図書館主催の大規模企画展「緑あふれる東京の再生をめざして」の会場の一角においても、同一のテーマで複製資料による展示を行い、中央図書館での文化財ウィーク展示を紹介した。

### 3 都立図書館企画展 「アスリートたち～北京オリンピック直前！」

#### 情報サービス課

#### 1 目的

2016年東京オリンピック・パラリンピックの開催意義の一つである、「スポーツを通じて、人々に夢と希望を与え、都市を躍動させる」ことに寄与し、オリンピック招致の機運の盛り上げを支援するため、都立図書館の豊富な図書・雑誌・映像資料を用いた企画展示を行い、併せ映画上映会を実施した。

#### 2 概要

##### (1) 展示会

期間：平成20年7月21日（月）～8月3日（日）

時間：午前10時から午後5時まで

会場：日比谷図書館 4階 大会議室

##### (2) 映画会

「東京オリンピック」（市川崑監督作品）

上映日：平成20年7月22日（火）

時間：午後2時から午後4時50分まで

会場：日比谷図書館 地下1階 講堂

※中央図書館が改修工事期間中であったため、日比谷図書館で開催した。

#### 3 構成

アスリートに視点を置き、都立図書館所蔵資料200余点を以下の7つのテーマに分けて展示した。

##### (1) ヒーロー&ヒロイン～いざ北京へ！

当館の最新雑誌を用いて北京オリンピック出場選手をビジュアルに紹介

##### (2) オリンピック競技を知る

オリンピック競技のルールブックなど、競技を知るための資料を配置

##### (3) アスリート列伝

戦前から現在までのメダリストの伝記などを展示し、彼らの知られざる横顔を紹介

##### (4) 覚えていませんか？あの選手、あの名場面

過去のオリンピックの報告書や写真集などを中心に、アスリートたちの勇姿を紹介

##### (5) 今輝いて パラリンピック

過去のパラリンピックの写真集など、パラ

リンピックの歩みをふりかえる資料を配置

##### (6) あの感動を再び 東京オリンピック 1964

東京オリンピック公式報告書やプログラム、絵はがきなど、当時の感動がよみがえる多数の資料を配置

##### (7) そして、東京へ

招致関係資料やオリンピック・パラリンピック会場図等「日本だから、できる。あたらしいオリンピック！」の魅力に迫る資料を配置



#### 4 入場者

暑い中ではあったが、展示会 902 名、映画会 136 名の入場者があった。展示資料を実際に手にとっていただくことで、都立図書館の資料の多様さ・豊かさを体感していただけたのではないと思う。特に「あの感動を再び 東京オリンピック 1964」のコーナーは、幅広い年齢の方が興味深く御覧になっていた。また、会場内で都立中央図書館視聴覚室所蔵の『東京オリンピックハイライト』等のビデオを上映したが、大変好評であった。その他、「資料をゆっくり閲覧することができた」という御意見が多く、例えば「アスリート列伝」のコーナーでは、戦前のメダリストの伝記を熱心にお読みになる方も見受けられ、図書館ならではの展示の特性を活かすことができたと自負している。

#### 5 最後に

平成21年10月には、いよいよ2016年第31回オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が決定される。都立図書館では、平成21年3月から5月にかけて、再びオリンピックに関する企画展示として、「東京の魅力、オリンピック・パラリンピックの魅力をより身近に感じられる」企画展としている。

#### 4 日比谷図書館企画展示 平成 20 年度テーマ展示及び トピック展示

日比谷図書館

##### 1 テーマ展示

平成 20 年度の展示は、社会的、時事的に注目されていると思われるテーマ、あるいは、利用者の関心が集まりそうなテーマを設定し、図書資料や雑誌記事の紹介を行った。

また、当館の蔵書を展示するだけでなく、それぞれのテーマに関連のある官公庁、団体、企業などにも協力を呼びかけ、各機関の概要や催しものなどを紹介するポスター、ちらし、パンフレット、グッズを提供していただいた。

テーマ展示は 3 階のホールで行っているが、図書資料については毎回 150～200 冊程度をピックアップし、それを 8 つ程度の小項目見出しに分けて書架に並べている。また、テーブルを 2 台用意し、表紙が見えるよう平置きにしたり、ページを開いて展示したりすることで、わかりやすく、手に取りやすい工夫をしている。協力機関から提供していただいたパンフレットなども自由に手にとれるよう机に並べている。

資料リストは図書で最大 8 ページ、雑誌リストについては 4～6 ページ程度にまとめ、利用者への配布、館内掲示、ホームページへの掲載など、情報発信に努めた。



展示コーナー書架



地球異変写真パネル

7 月に行った「STOP！地球温暖化～洞爺湖サミットを機に～」では、朝日新聞社から、6 月に築地の浜離宮朝日ホールで開催された「地球異変写真展」の写真パネル・キャプションを借用し、展示した。8 月には写真パネルを入れ替えて引き続き借用し、東京都知事本局との連携イベントとして「STOP！地球温暖化～C40 気候

変動東京会議へ向けて」と題した展示を通常のテーマ展示と併せて行った。また、協力機関の御厚意でエコバッグ等を利用者に配布することができた。

テーマ展示は通常 1 か月ごとに入れ替えるが、11 月、12 月は日比谷図書館開館 100 周年にちなみ、「日比谷図書館とその時代ー創立 100 年記念」というテーマで 2 か月間展示を行った。日比谷図書館開館当時の建物、閲覧室の活況、戦時の資料疎開の様子など、写真を多用し、壁面を活用して手作りのパネルを展示した。



開館 100 周年記念展示

##### テーマ展示(20 年度の内容と期間)

| テーマ                               | 展示期間              |
|-----------------------------------|-------------------|
| 平成の 20 年を考える                      | 4 月 4 日～4 月 30 日  |
| 「食」を考える                           | 5 月 2 日～6 月 4 日   |
| ブラジルを知ろう                          | 6 月 6 日～7 月 2 日   |
| STOP！地球温暖化～洞爺湖サミットを機に～            | 7 月 4 日～8 月 6 日   |
| STOP！地球温暖化～C40 気候変動東京会議へ向けて(特別展示) | 8 月 8 日～10 月 1 日  |
| オリンピックを楽しむ                        | 8 月 8 日～ 9 月 3 日  |
| 地震への備えは万全ですか                      | 9 月 5 日～10 月 1 日  |
| 日比谷図書館職員がお薦めする 100 冊の本            | 10 月 3 日～11 月 5 日 |
| 日比谷図書館誕生とその時代ー創立 100 年記念          | 11 月 7 日～1 月 7 日  |
| 星ふる冬の夜にー世界天文年 2009ー               | 1 月 9 日～ 2 月 4 日  |
| メコン地域と日本ー交流年になんで                  | 2 月 6 日～ 3 月 4 日  |
| 別れと出会い<br>特別展示 (都立図書館の歴史)         | 3 月 6 日～ 3 月 31 日 |

## 2 トピック展示

平成20年度は57回のトピック展示を行った。その時々話題や事項に迅速にスポットをあて、20～40冊程度の図書を新着棚の隣の棚で10日前後展示するというものである。展示図書の減り具合を見ながらの入れ替えにより、通常1～2のトピックを展示している。

今年度は季節や行事に関わるものを多く取り入れ、日比谷公園内でのイベントなどに関連付けて本を紹介するなど、利用者の読書意欲の促進を目指して、回数を増やし、常に新鮮な展示を心がけた。ここに展示された図書は時事的に注目される題材が選ばれるため、利用者からの注目度も高く、貸出率が高い。人気が高いテーマとしては、文学賞受賞者の著作や追悼などが挙げられる。

### トピック展示(20年度の内容と期間)

|    | 項目                    | 期間(年月日)     |
|----|-----------------------|-------------|
| 1  | 春のガーデニング              | 4月1日～       |
| 2  | 追悼 石井桃子氏              | 4月14日～5月9日  |
| 3  | 追悼 川内康範氏              | 4月14日～      |
| 4  | シュベルト(映画会)            | 4月28日～5月9日  |
| 5  | 祝・三宅島空路再開             | 5月3日～5月16日  |
| 6  | 愛鳥週間                  | 5月10日～5月16日 |
| 7  | 自然災害                  | 5月17日～5月30日 |
| 8  | 水道週間                  | 5月31日～6月10日 |
| 9  | 追悼 イヴ・サンローラン氏         | 6月6日～6月12日  |
| 10 | 「お父さん」に注目!            | 6月11日～6月17日 |
| 11 | 追悼 氷室冴子氏              | 6月12日～6月17日 |
| 12 | 追悼 野田昌広氏              | 6月12日～6月17日 |
| 13 | 雨を楽しむ                 | 6月18日～6月27日 |
| 14 | 追悼 水野晴郎氏/チンギス・アイトマトフ氏 | 6月20日～6月25日 |
| 15 | 追悼 ターシャ・テューダー氏/宮迫千鶴氏  | 6月25日～7月4日  |
| 16 | 七夕-夜空を見上げよう           | 6月27日～7月9日  |
| 17 | 追悼 ライアル・ワトソン氏         | 7月5日～7月11日  |
| 18 | 夏休みがやってくる             | 7月9日～7月21日  |
| 19 | 海の日-東京湾               | 7月12日～7月24日 |
| 20 | 第139回芥川賞直木賞受賞者の著作     | 7月17日～7月19日 |
| 21 | 宮沢賢治(映画会)             | 7月22日～8月1日  |
| 22 | アンチエイジング(講演会)         | 7月25日～8月3日  |
| 23 | 追悼 戸塚洋二氏/工藤幸雄氏        | 8月2日～8月11日  |
| 24 | 原爆 ヒロシマ・ナガサキ          | 8月4日～9月3日   |

|    |                                  |               |
|----|----------------------------------|---------------|
| 25 | 追悼 赤塚不二夫/アレクサンドル・ソルジェニーツィン氏      | 8月11日～8月18日   |
| 26 | 生活習慣病を考える(+中央保健室の12冊)            | 8月18日～9月3日    |
| 27 | 命を救う - レスキュー・救急救命                | 9月5日～9月12日    |
| 28 | オクトーバーフェスト                       | 9月11日～9月26日   |
| 29 | 就職・転職を考える                        | 9月17日～10月3日   |
| 30 | マグサイサイ賞受賞                        | 9月26日～10月8日   |
| 31 | 国際協力を考える                         | 10月4日～10月28日  |
| 32 | 鉄道の日(10月14日)                     | 10月8日～10月22日  |
| 33 | ノーベル物理学賞受賞者の著作                   | 10月8日～10月12日  |
| 34 | クラゲってこんな生物(祝・ノーベル化学賞受賞)          | 10月13日～10月22日 |
| 35 | カラヤン・朝比奈生誕100周年・バーンスタイン生誕90周年    | 10月23日～11月14日 |
| 36 | 生誕80周年手塚治虫氏                      | 10月28日～11月20日 |
| 37 | 追悼 筑紫哲也氏                         | 11月15日～11月19日 |
| 38 | 追悼 マイクル・クライトン氏                   | 11月20日～11月28日 |
| 39 | ボジョレー・ヌーヴォー解禁 ワインを楽しむ            | 11月20日～12月3日  |
| 40 | 金融危機・サブプライム問題を考える                | 11月29日～12月8日  |
| 41 | 年賀状の準備はお済みですかー来年は丑年!             | 12月5日～12月15日  |
| 42 | 追悼・加藤周一氏                         | 12月9日～12月17日  |
| 43 | 文藝春秋12月号「死ぬまでに読みたい本」日比谷図書館所蔵資料より | 12月16日～1月5日   |
| 44 | クリスマスを巡る物語                       | 12月17日～28日    |
| 45 | 追悼 早乙女貢氏                         | 1月6日～1月22日    |
| 46 | 天地人・直江兼続と戦国時代                    | 1月7日～1月17日    |
| 47 | 第140回芥川賞直木賞受賞者の著作                | 1月17日～1月25日   |
| 48 | 電子メール(Eメール)の日 1月23日              | 1月22日～2月3日    |
| 49 | 生誕100周年 松本清張氏                    | 1月25日～2月6日    |
| 50 | Sweet&Bitter バレンタインデー            | 2月3日～2月14日    |
| 51 | 追悼 泡坂妻夫氏                         | 2月7日～2月17日    |
| 52 | インフルエンザの脅威                       | 2月16日～2月25日   |
| 53 | 花粉症                              | 2月17日～3月10日   |
| 54 | 生誕100年 太宰治氏                      | 2月25日～3月15日   |
| 55 | 生誕100年 大岡昇平氏                     | 3月11日～3月20日   |
| 56 | はじまる裁判員制度                        | 3月15日～3月31日   |
| 57 | 生誕100年 淀川長治氏                     | 3月20日～3月31日   |

## 5 多摩図書館企画展

### 東京マガジンバンク及び児童・青少年サービスのプレ展示

多摩図書館

#### 1 はじめに

多摩図書館は、年間計画に基づき、平成 20 年 5 月 1 日から、全館を挙げて計画的に企画展を実施してきた。

その目的は、平成 21 年 5 月リニューアルオープンする多摩図書館の 2 大機能である「東京マガジンバンク」及び児童・青少年サービスを中心とする新多摩図書館の魅力と利便性を周知・広報し、一層広く都民の利用に供することにある。

#### 2 実施の様子

##### (1) 東京マガジンバンクのプレ展示

ア マガジンバンクの創設に向けて通年で「雑誌の魅力を探る」と題し、各回にテーマを設定して展示を行った。

##### イ 各回の概要

##### ●第1回「世界の女性誌」 6/6～7/2

世界各国の女性誌を展示した外、創刊誌、終刊・休刊誌にも焦点を当てた。手に取り、読みふける利用者も多かった。

平成20年度 東京都立多摩図書館企画展示

#### 雑誌の魅力を探る ①

## 世界の女性誌

2008年6月6日(金) ～7月2日(水)



数ある雑誌の中、華やかさ、多様さで存在感を誇っているのが「女性誌」です。女性誌は、時代の流れや女性たちのライフスタイルの変化を敏感に捉えながら、愛読を遂げしてきました。

最近では、40代、50代向け女性誌が相次いで創刊されるなど、読者層の拡大も進んでいます。

当館が所蔵する多様な雑誌をテーマ別に展示するシリーズの第一弾として、今回は「世界の女性誌」をご紹介します。

##### ★世界の女性誌 ア・ラ・カルト

各国の代表的な女性誌、各国語版比較：『Vogue』（米・仏・英・露・独・伊・豪・日）『Elle』（仏・独・中・日）『marie claire』（仏・英・伊・日） など

##### ★日本の女性誌 百花繚乱

年代別・スタイル別雑誌総覧（ティーン誌、元祖OLファッション雑誌、ビューティ誌、ハイファッション・モード誌、生活実用誌、老舗ミセス誌 など）

##### ★創刊号でたどる女性誌

『女性自身』(南朋舎)、『an・an』、『25ans (ヴァンサンカン)』 など

##### ★終刊(休刊)雑誌を見る

『主婦の友』91年間の歩み など

#### 東京都立多摩図書館

〒190-8543 立川市錦町6-3-1 TEL 042-524-7186  
JR南武線西国立駅より徒歩10分 (多摩教育センター内)

#### <ポスター>

##### ●第2回「アートは踊る」 9/5～10/1

アーティストたちの技と才能が繰り出す多彩なアート。美術・建築・音楽・演劇等の雑誌を紹介した。

##### ●第3回「暮らしの学び舎」 10/3～11/5

ライフスタイル誌の多様化・細分化が進んでいる。子育て・健康・環境問題など、暮らしに係わる雑誌の展示を行った。



#### <暮らしの学び舎 展示の様子>

##### ●第4回「旅する街」 12/5～27

日本各地の地域情報誌を中心に、旅の雑誌や海外事情・文化を伝える雑誌を紹介した。地域情報誌を手にする利用者も多かった。

##### (2) 子供読書活動の推進のための展示

ア 「東京都子ども読書活動推進資料」の展示 5/2～6/4

4月23日の「子ども読書の日」にちなみ、平成20年3月に作成・配布した「東京都子ども読書活動推進資料2007 羅針盤」に掲載した、高校生向けの図書(49冊)を展示し、併せて昨年度以前に作成した4つの子どもの読書活動推進のための啓発資料に関する展示を行った。

イ 「センス・オブ・ワンダー～こどもの科学の本」の展示 7/4～9/3

子供たちが夢中になる自然への疑問や自然をもっと知りたいという願いにこたえて作られてきたたくさんのすぐれた子供の科学の本を展示した。子供の科学の本の明治以来の歴史をたどり、先人の科学の本への思いや工夫を紹介し、その楽しさ、豊かさを味わっていただいた。



#### <センスオブワンダーの展示>

## 6 都立多摩図書館企画展示

### 「山本有三を考える（山本有三展 ④）」

#### 多摩図書館

今回の展示は山本有三展の第4回目である。山本有三は、今でこそあまり話題にのぼることも少なくなったが、日本が敗戦という危機に直面した時、「心に太陽を持て」という心情を失わず、戯曲・小説を通じて日本人を励ましてきた。代表作『路傍の石』は戦前・戦後を通じ、4度も映画化されている。社会の閉塞感が強い今の我々に、有三が何をアピールしたのか、振り返ってみた。

今回、文庫の内容を調査したところ蔵書から多くの「書き込み」を発見した。そして、これらは有三の生前の文学的業績や社会的事跡と密接に関っていることが分かってきた。

そこで、「書き込み」から有三の代表作がどのような資料を使って、有三自身どのような意見、考えを持ちながら完成させられていったのか、その形跡を辿ってみた。

また、蔵書の中にある贈呈本にも注目し、特に近衛文麿との交友にスポットを当て、有三のライフワークとなった近衛の伝記『濁流』に、長年にわたる有三の渾身の思いを紹介した。

さらに、有三が文学者の地位を獲得した演劇の世界を、雑誌『演藝画報 復刻版（不二出版）』に掲載された当時の演劇の様子をパネルで紹介した。

#### 【展示内容】

##### 1 演劇の時代

- (1) 山本有三の年譜と社会・文学年表
- (2) 『女の一生』芸術座

平成8年3月 八千草薫上演ポスター1枚

- (3) 雑誌『演藝画報 復刻版（不二出版）』から有三作品の上演パネル14作品

##### 2 『真実一路』

- (1) 『真実一路』の表記表現
- (2) メリデイスの影響下で

##### 3 『路傍の石』

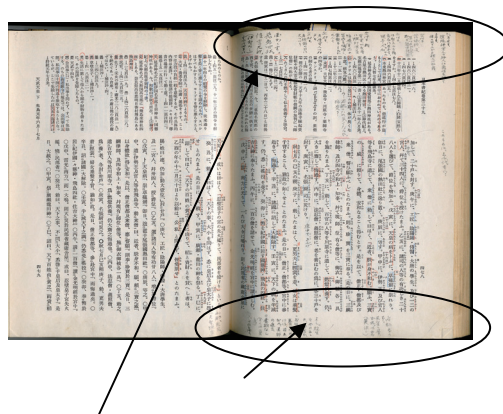
- (1) 『路傍の石』の映画化
- (2) 『路傍の石』の稿本

##### 4 『濁流—雑談 近衛文麿』

##### 5 座右の銘（「心に太陽を持て」ほか）

##### 6 文庫調査の結果

- (1) 文庫の蔵書構成
- (2) 有三の書き込み本



【有三による書き込み】

##### 7 ガラスケース展示

- (1) 有三の交友（岡田嘉子、石井桃子、直木孝次郎、志賀直哉、谷崎潤一郎、谷川徹三ほか）
- (2) 書き込み本（『日本書紀』『壬申の乱』ほか）
- (3) 芥川龍之介の死の直前の筆跡

##### 8 ショーウィンドー展示

- (1) 6代目尾上菊五郎の演劇
- (2) 「有三と近衛」



【展示期間】平成20年11月7日～12月3日

【開館時間】

平日 午前9時30分から午後7時まで  
（土日祝 午前9時30分から午後5時まで）

【展示場所】東京都立多摩図書館

立川市錦町6-3-1

（東京都多摩教育センター内）

電話 042-524-7186

## 7 山本有三文庫の「書き込み」調査

### 多摩図書館情報サービス係

蔵書はその所有者の「知の証し」である。残された蔵書から、生前その人が何に関心を寄せ、どんな資料を読み、人生を生きてきたのかをある程度推測することができる。

当館の山本有三文庫は、生前の氏の蔵書の多くを引き継いだものであり、まさしく有三の「知の結晶」を証明するものである、といえる。

有三作品はどのような資料を使って完成させられていったのか、どのような思いを結実させようとして調査研究に励んだのか、その物理的証拠が書き込み本である。

有三は生前、自分の読んだ本に「書き込み」を入れるのが習慣であった。長女永野朋子さんの著書『いいものを少し』の128p「本に線を引く」というエッセイの中に、「大事な個所には傍線をつけたり、上に二重線を引いたりしておくのが父の習慣だった。父が目を通している本かどうかは、その線の有無ですぐにわかった」とある。

有三の蔵書をみると、確かに目を通したと思われる本には、こうした書き込みがなされたものが多い。自分の考え、意見、感想、知り得た情報等を書き込んだり、線を引いたり、印を付したりしている。傍線も文章に引かれたもの、数行を括った枠の線、丸点を付したものもある。

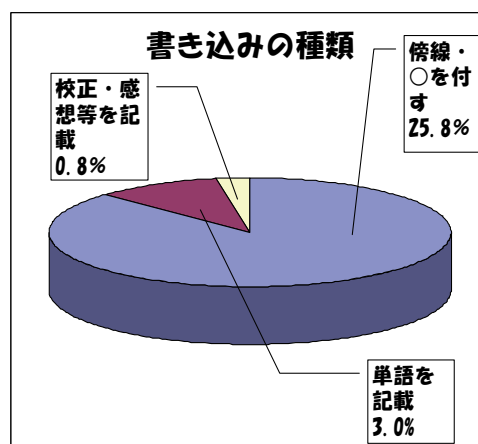
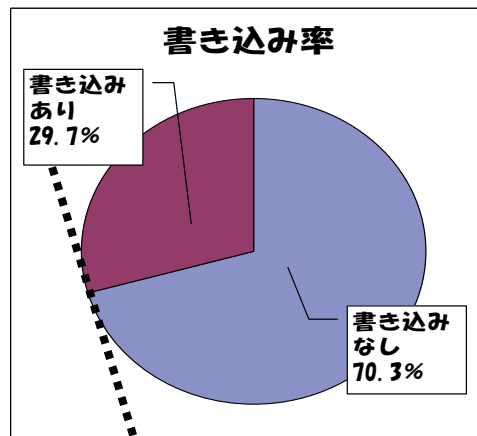
山本有三文庫にどのくらい、どんな書き込みがあるのか、その実態について雑誌と和装本の一部を除くほぼ全点にわたって調査した。

【調査冊数 13, 647 冊】

| 書き込みあり   | 書き込みなし   |
|----------|----------|
| 4, 036 冊 | 9, 611 冊 |

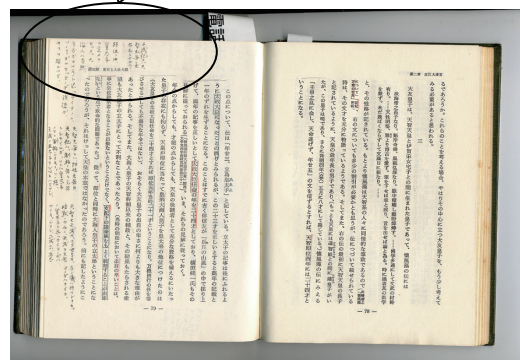
【書き込みの種類】

| 傍線・○     | 単語    | 訂正・感想 |
|----------|-------|-------|
| 3, 519 冊 | 405 冊 | 112 冊 |



【有三による書き込み例】

天武紀ニハ天智元年ニ立太子トアル？  
即位ノ件、皇太子ヲ定ナカツタ。大海人  
ハ当然、自分ガナルモノトオモッテイタ  
ノニ、ソノ（コト）ガナカツタノデ、浜  
楼デヤリヲ振ルツタ。



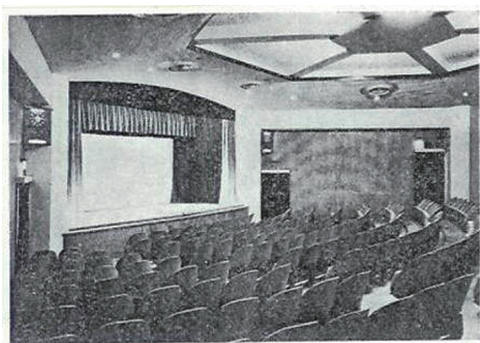
## 8 日比谷図書館映画会

### 日比谷図書館

昭和32(1957)年10月5日新館開館から50余年。日比谷図書館第二の誕生から今年度の第1回映画会まで、日比谷図書館映画会は、通算3,800回を上回る上映回数を数えている。

上映作品は、毎月テーマに基づいて選定しているが、今年度は館内外のイベントと連動した作品の上映を中心に行ってきた。日比谷図書館は、3月31日で休館となるため、3月に日比谷図書館映画会集大成ともいえる2つの記念イベントを行った。

第1弾としては、日比谷図書館第二の誕生の年である昭和32(1957)年に制作・公開された映画を3月の毎週水曜日に上映した。第2弾は、「アンコール映画会」として日比谷図書館映画会で上映した作品のうち、再上映の希望が多くフィルムの状態もよい12本の作品の中から、映画会参加者の投票により選ばれた4作品を3月30・31日午前・午後 に上映した。



第二の誕生当時の講堂

#### 《平成20年度上映作品一覧》

| 月 日   | 上映作品                                    | 入場者数 |
|-------|-----------------------------------------|------|
| 4月9日  | 2008年新着フィルム「王さまでかけましよう」「まる子うそをつく」「桐壺人形」 | 101  |
| 4月23日 | マルセルのお城 (仏映画)                           | 200  |
| 4月30日 | *シュューベルト物語 (伊映画)                        | 305  |
| 5月14日 | 黒い牡牛                                    | 165  |

|        |                                    |     |
|--------|------------------------------------|-----|
| 5月28日  | イヌワシ 風の砦、クマタカ 森の精                  | 191 |
| 6月11日  | 巣立ちのとき 教育は死なず                      | 186 |
| 6月25日  | 先生のつうしんぼ                           | 183 |
| 7月9日   | 四万十川                               | 204 |
| 7月22日  | *東京オリンピック                          | 136 |
| 7月23日  | *アニメに見る宮沢賢治の世界「水仙月の四日」他            | 210 |
| 7月30日  | 絵の中のぼくの村                           | 177 |
| 8月6日   | *東京オリンピックへの道                       | 98  |
| 8月13日  | *TOMORROW-明日-                      | 205 |
| 8月27日  | *千羽づる                              | 230 |
| 9月10日  | 街道を行く「街道に残る文化財」他                   | 212 |
| 9月24日  | 山手線駅めぐり「池袋-新東京地図3-」他               | 189 |
| 10月8日  | *東京と緑「緑の都市計画」他                     | 113 |
| 10月22日 | 和の色-染織-「織りと染め-近世の技術と生活-」他          | 99  |
| 10月29日 | *カラヤン生誕100年「L.V. ベートーベン 交響曲第5番運命」他 | 190 |
| 11月12日 | 土と炎と-陶芸-「土と炎と人と-清水卯一のわざ-」他         | 105 |
| 11月26日 | 舞台上に生きる「世阿弥の能」他                    | 134 |
| 12月10日 | *真昼の暗黒                             | 245 |
| 12月24日 | 少年の日の思い出 冬の朝                       | 165 |
| 1月14日  | *民俗風習・芸能「お正月再発見 上・下」他              | 116 |
| 1月28日  | 文楽を楽しむ「文楽への誘い」他                    | 135 |
| 2月11日  | 細雪                                 | 281 |
| 2月18日  | ホーム・スイートホーム 2 日傘の来た道               | 216 |
| 2月25日  | 古都                                 | 295 |
| 3月4日   | 喜びも悲しみも幾歳月                         | 244 |
| 3月11日  | めぐり逢い                              | 270 |
| 3月18日  | パリの恋人                              | 236 |
| 3月25日  | 悲しみよこんにちは                          |     |

(\*) 添付の作品は、テーマ展示・トピック展示  
・CDのテーマ展示・都立図書館企画展示との  
連携上映会

## 9 平成20年度 子供読書フォーラム 「本を読むこと」との幸せな出会いを

企画経営課、多摩図書館

### 1 概要

都立図書館では、平成20年11月7日（金）、東京都多摩教育センターのホールにおいて、「子供読書フォーラム～「本を読むこと」との幸せな出会いを」を開催した。

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、国はもとより、東京都においても平成15年に「東京都子ども読書活動推進計画」を定め、地域、家庭、学校、図書館などが、様々な子供の読書活動推進への取組を進めている。

この取組の一環として、昨年度に引き続きの開催となった本フォーラムは、11月の第一土曜日の「東京都教育の日」並びに10月27日の文字・活字文化の日の事業でもある。都民に広く子供の読書活動についての関心を深め、より一層、子供の読書活動が広がっていくことを目的とした。

### 2 内容

フォーラムは、2部構成とし、第1部では、ノートルダム清心女子大学教授の脇明子氏による講演が、第2部では、「子供読書活動報告会」と題し、子供たちと本との出会いに関する優れた実践報告と実践報告者によるパネルディスカッションが行われた。

講演では、脇明子氏は全国的に子供の読書活動推進のために活発な活動が行われるようになった点を評価しながらも、一方空回りしている実態もあると警鐘を鳴らし、子供が本を読むことはなぜ必要かを改めて問いかけた。豊かな実体験や言葉による交流が不足しがちな現代の子供にとって、質のよい読書が感情移入や五感体験を促し、実体験に代わることができる。そのために大人が取り組むべきことを具体的な本を紹介しながら、提案してくださった。

会場のホワイエでは、都立多摩図書館児童青少年資料係が所蔵する貴重書を中心とした企画展示「昔話の宝物」と第1部の講演関連資料や脇明子氏の著作紹介、東京都子供読書活動推進資料の展示をあわせて行った。

今年度の新たな取組としては、幼児を持つ保護者の参加を促すため、1歳から未就学児までを対象とした「一時保育」を行い、12名の幼児を保育した。また、昨年度の反省を活かし「手話通訳」を導入したが、ろう学校の報告などがあつたためか、手話通訳を熱心に聴いている参加者が数名おり、幅広い都民の参加が可能となった。



（脇 明子氏による講演の様子）

### 《プログラム》

#### 第1部 講演 「読む力は生きる力」

ノートルダム清心女子大学教授 脇 明子氏

#### 第2部 子供読書活動報告会

##### （1）読書活動に関する実践報告

○新宿区立こども図書館

新宿区立こども図書館 鶴飼 利江氏

○小平市立図書館の児童サービス

～「おはなし会」を中心に～

小平市中央図書館 渡辺 房江氏

○「子ども」と「読書」との架け橋に

都立大塚ろう学校 菅原 充範氏

##### （2）パネルディスカッション

###### ・パネリスト

新宿区立こども図書館 鶴飼 利江氏

小平市中央図書館 渡辺 房江氏

都立大塚ろう学校 菅原 充範氏

###### ・コーディネーター

東京子ども図書館理事 小関 知子氏

### ◆企画展示 「昔話の宝物」

私たちの祖先が、長い間、語り伝えてきた昔話は、19世紀以降、美しい絵本やイラスト入りの本として出版されるようになった。今回の企画展示では、貴重書を中心に、様々な時代と地域で描かれた昔話絵本やイラストを展示し、その独創性や魅力を紹介した。

出展

ちりめん本「勝々山」

ウォルター・クレーン「ジャックと豆の木」

ビリービン「イワンと灰色のオオカミ」

ほか



(企画展示の様子)

## 3 実施結果

(1) 来場者数 398 名

申込別内訳

一般 273 名、図書館 68 名、

小中学校 39 名、都立学校 18 名

一時保育利用者 12 名

(1-2 歳児 11 名、3 歳児 1 名)



(会場の様子)

(2) アンケート回収枚数

194 枚 (回収率 48.7%)

(3) アンケートからの分析

男女比は、女性が 8 割以上を占め、年代は、

40 代と 50 代がそれぞれ 3 割ずつ、次いで 30 代が 2 割弱と幅広い参加者となった。

住所については、市町村からの参加が 5 割強であった。多摩地域での開催であったが、地域による偏りは、みられなかった。

全体評価は、「大変よい」と「よい」を合わせると 9 割で大変評価が高い。参加者の満足度は、全体評価の自由記述欄にも表れており、実に約 7 割という記入率であった。また、記入率もさることながら、記述欄には、大変多くの意見が寄せられた。

講演では、質の良い本、それを子供が読むことの意味、手渡すことの大切さなどについて勉強になった、わかりやすかった、日ごろ感じていた疑問にこたえを得られた、明日からの活動のヒントをもらったなどの、熱意ある感想が多数あり、また、ろう学校の実践報告がすばらしい、役にたったという意見などが特に多かった。

ホワイエでの展示も好評で、展示ブースで配布した展示目録や広報誌各 200 部はすべてなくなった。



(パネルディスカッションの様子)

## 4 最後に

約 400 名という多くの方に参加いただけたこと、幅広い年代の方の参加があったことは、日ごろからの子供の読書への活動と関心が高まったことによるものと思われる。

これまでの子供読書活動推進への取組を踏まえ、今後も都立図書館は、学校や区市町村立図書館、地域などとの様々な連携を通じ、積極的に子供読書活動推進に取り組んでいきたい。

---

## 《資料》都立図書館における名簿類（「省庁の幹部職員の住所録等」）の取扱いについて

---

平成 20 年 11 月 18 日に厚生省の元事務次官夫妻等が襲われ、死傷するという事件が発生した。この事件の容疑者は図書館から個人情報入手したとの報道もあり、模倣犯等社会的影響を勘案する必要が議論された。また、厚生労働省の職員名簿について、国立国会図書館が厚生労働省の要請により緊急的措置として閲覧を休止するとの報道もあった。

### 1 緊急的な措置について

都立図書館ではこれらの状況を踏まえ、資料取扱委員会での検討を経て、平成 20 年 11 月 26 日、「省庁の幹部職員の住所録等」について以下の取扱いとすることとした。

- (1) 厚生労働省の職員名簿について、都立図書館としても年内は暫定的措置として住所・電話番号（以下「個人情報」という。）の記載されている資料の閲覧を休止する。
- (2) 他の省庁の職員名簿、「職員録」、「人事興信録」及び「日本紳士録」の個人情報が記載された資料は閉架とする。これらの資料の閲覧に当たっては、注意を喚起する文書を渡すとともに閲覧席を指定し、複写（コピー）は不可とする。また、レファレンス請求を受けた場合は、個人情報については提供しない。

この措置は平成 21 年 1 月 4 日までに再度検討するとしていたため、資料取扱委員会で引き続き検討を行い、1 月以降についても上記の取扱方法を変更せず、当分の間、継続することとした（平成 20 年 12 月 24 日発表）。（※（1）の対象となる「厚生省名鑑」は、平成 6 年版（1994 年）～平成 13 年版（2001 年）の計 8 冊（中央図書館のみ所蔵））

### 2 厚生省名鑑の閲覧休止解除と今後の名簿類の取扱いについて

その後も資料取扱委員会での熱心な検討などを経て、①個人情報保護に関する意識の高まり、②広範な資料を提供する図書館としての役割の 2 つの観点から、厚生省名鑑の閲覧休止措置と今後の名簿類の取扱いについて、平成 21 年 3 月 1 日から以下のように取り扱うこととした。

都立図書館における名簿類の取扱いの変更について（平成 21 年 2 月 27 日発表の骨子）

#### 1 厚生省名鑑の取扱いについて

厚生省名鑑計 8 冊について、閲覧休止を解除し、今後は、下記 2 の取扱いとする。

#### 2 都立図書館における名簿類の取扱いについて

- (1) 発行から 50 年以上経過した名簿類及び、それ以外の名簿類のうち、被掲載者の掲載許諾の確認できる名簿類 → 一般の資料と同様の取扱いとする。
- (2) 発行から 50 年以上経過した名簿類以外のうち、被掲載者の掲載許諾の確認できない名簿類 → 閉架とし、注意喚起文書を渡し、指定した席での閲覧とする。また、個人情報については、複写（コピー）は不可とし、レファレンスでは提供しない。

この基準に基づき、個々の名簿類について掲載許諾確認作業を行っている。都立図書館の蔵書のうち、これらの名簿類の冊数を確定することは困難であるが、多くは過去 50 年以上前のデータを掲載したものや、個人事業者の事務所・連絡先等の掲載であった。

また、最近発行のものは個人情報が掲載されていないことなどから、(2) に該当する名簿類はごく少数と想定される。

複写機による個人情報の複写（コピー）はお断りするが、個人情報が写りこまない方法であれば、それ以外の部分の複写は可とし、また、手書きでのメモは制限しない。レファレンスでは、個人情報が特定できるような回答は行わない。

《資料》平成20年度 プレス発表一覧

|    | 報道発表日       | 曜日 | 事業実施期間（日）                   | 掲載内容                                                    | 事業所管課            |
|----|-------------|----|-----------------------------|---------------------------------------------------------|------------------|
| 1  | H21. 4. 15  | 火  |                             | 『羅針盤—高校生のためのノンフィクション49冊—』<br>～高校生に本を紹介する小冊子を発行～         | 地域教育支援部<br>多摩図書館 |
| 2  | H20. 5. 15  | 木  | 平成20年度中                     | 東京都立中央図書館で、中小企業診断士による「「ビジネス・起業創業相談会」を開催します              | 情報サービス課          |
| 3  | H20. 6. 26  | 木  | 平成20年7月26日（土）               | 医療情報サービス公開講座「アンチエイジングの実践」                               | 情報サービス課          |
| 4  | H20. 7. 7   | 月  | 平成20年7月21日（月）～<br>8月3日（日）   | 都立図書館企画展 「アスリートたち 北京オリンピック直前！」                          | 情報サービス課          |
| 5  | H20. 8. 19  | 火  | 平成20年9月18日（木）               | ビジネス情報サービス<br>就職活動セミナー「キラリと光る企業を探そう@図書館2008」            | 情報サービス課          |
| 6  | H20. 8. 26  | 火  | 平成20年10月1日（水）               | 法律情報サービス 講演会<br>「知っておきたい相続・遺言、成年後見の知恵」                  | 情報サービス課          |
| 7  | H20. 9. 10  | 水  | 平成20年11月7日（金）               | 平成20年度「子供読書フォーラム」～「本をよむこと」との幸せな出会いを～                    | 企画経営課<br>多摩図書館   |
| 8  | H20. 9. 18  | 木  | 平成20年10月31日（金）<br>～11月9日（日） | 都立図書館企画展<br>「緑あふれる東京の再生をめざして」の開催について                    | 企画経営課<br>情報サービス課 |
| 9  | H20. 10. 14 | 火  | 平成21年4月1日～                  | 都立日比谷図書館の千代田区移管に向けた<br>基本的な方向性の合意について                   | 地域教育支援部          |
| 10 | H20. 11. 26 | 水  |                             | 都立図書館における「省庁の幹部職員の住所録等」の取扱いについて                         | 情報サービス課          |
| 11 | H20. 12. 10 | 水  | 平成21年1月4日（日）<br>～2月25日（水）   | 東京都立中央図書館リニューアル記念企画展<br>～都立図書館100年の歩み～                  | 企画経営課            |
| 12 | H20. 12. 24 | 水  |                             | 都立図書館における「省庁の幹部職員の住所録等」の平成21年1月以降の取扱い                   | 情報サービス課          |
| 13 | H20. 1. 21  | 水  | 平成21年2月22日（日）               | 東京都立中央図書館リニューアル記念講演会<br>～自分を進化させる読書～ウェブ時代の新しい読書論-勝間和代さん | 企画経営課            |
| 14 | H20. 1. 28  | 水  | 平成21年2月21日（土）               | 健康・医療情報 公開講座<br>“うつ病”とメンタルヘルスドクターに聞く基礎知識～               | 情報サービス課          |
| 15 | H21. 2. 4   | 水  | 平成21年3月6日（金）                | 就職活動セミナー「自分にピッタリの企業を探そう」                                | 情報サービス課          |
| 16 | H21. 2. 4   | 水  | 平成21年2月4日（水）～               | 東京資料サーチ リニューアル                                          | 企画経営課            |
| 17 | H21. 2. 16  | 月  | 平成21年3月6日（金）～<br>31日（火）     | 都立日比谷図書館100周年記念イベント                                     | 日比谷図書館           |
| 18 | H21. 2. 18  | 水  | 平成21年3月13日（金）               | 法律情報サービス 講演会 多重債務問題をともに考える<br>～解決への糸口・債務整理の方法と心得～       | 情報サービス課          |
| 19 | H21. 2. 25  | 水  | 平成21年3月17日（火）～<br>5月6日（水）   | 企画展「2016年オリンピック・パラリンピックを日本で！」                           | 情報サービス課          |
| 20 | H21. 2. 27  | 金  | 平成21年3月1日（日）～               | 都立図書館における名簿類の取扱いの変更について                                 | 情報サービス課          |

ISSN 0440-7695

都立図書館報 通巻 第158号

東京都教育委員会印刷物登録  
平成20年度 第12号

平成21（2009）年3月

編集・発行 東京都立中央図書館

〒106-8575

東京都港区南麻布五丁目7番13号 有栖川宮記念公園内

電話 03-3442-8451（代）

印刷会社名 有限会社 福本印刷所

電話 03-3620-4629

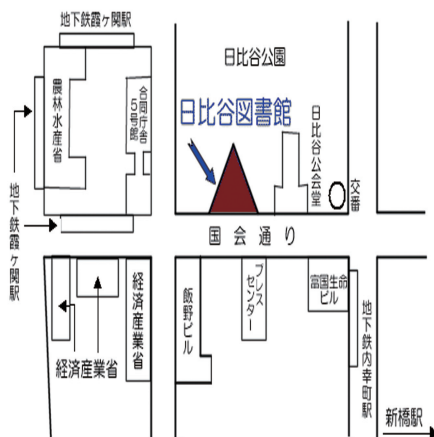
東京都立中央図書館



東京都立日比谷図書館



東京都立多摩図書館（仮閲覧室）



〒106-8575

東京都港区南麻布5-7-13

電話 03-3442-8451（代）

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園1-4

電話 03-3502-0101（代）

〒190-8543

東京都立川市錦町6-3-1

（東京都多摩教育センター内）

電話 042-524-7186（直通）

○東京メトロ日比谷線

広尾駅1番出口から徒歩8分

○東京メトロ南北線・都営地下鉄大江戸線

麻布十番駅 徒歩20分

○都営バス 橋86系統

愛育病院前 徒歩2分

○東京メトロ丸の内線・千代田線・日比谷線

霞が関駅 徒歩5分

○都営三田線

内幸町駅 徒歩3分

○JR 山手線ほか

新橋駅 徒歩12分

※平成21年4月1日から休館いたします。

※平成21年7月1日に千代田区へ移管

○JR 中央線

立川駅 徒歩10分

○JR 南部線

西国立駅 徒歩10分

○京王バス

立川駅北口から立64・立73系統

乗車10分 錦町三丁目下車 徒歩5分

東京都立図書館報 通巻 第158号

発行日 平成21年3月31日

発行 東京都立中央図書館



日本だから、できる。  
あたらしいオリンピック!